

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P7304A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策						
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。						
到達目標	1) 大学院入試に必要な心理学について書かれた英語の長文を読んで理解できる【知識・理解】 2) 大学院入試に必要な心理学についての基礎的な知識について確認できる【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理学のアプローチ 3. 心理学における問題 4. Cognitive psychology: origins of memory 5. Cognitive psychology: STM, LTM and duration 6. Cognitive psychology: nature of memory 7. Cognitive psychology: working memory 8. Developmental psychology: Early social development 9. Developmental psychology: attachment 10. Developmental psychology: Bowlby's theory 11. Developmental psychology: types of attachment 12. Perception: Top down process 13. Perception: Bottom up process 14. Perception: Development 15. Perception: Nature-Nurture debate 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとられず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書などで当該の箇所を読んで理解しておくことが必要である。</p> <p>授業前学習：概論書での学習、英語長文の翻訳作業（3時間以上）。</p> <p>授業後学習：授業で指摘された点の復習等（1時間以上）。</p>						
授業方法	論文講読						
評価基準と評価方法	<p>課題（70%）、授業態度（30%）</p> <p>課題：授業での課題発表を総合的に評価する。</p> <p>授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。</p>						
履修上の注意	<p>日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。</p> <p>大学院入試の受験勉強は孤独になりがちであるが授業で仲間をみつけて欲しい。</p>						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P7304B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策						
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。						
到達目標	(1) 大学院入試に必要な心理学について書かれた英語の長文を読んで理解できる【知識・理解】 (2) 大学院入試に必要な心理学についての基礎的な知識について確認できる【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション 2. Perception: Face recognition & Agnosia 3. Learning: Classical conditioning 4. Learning: Operant conditioning 5. Learning: Conditioning and behavior of animals 6. Social psychology: Conformity 7. Social psychology: Conformity to majority 8. Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9. Social psychology: Obedience to authority 10. Psychopathology: Definitions of abnormalities 1 11. Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12. Psychopathology: Biological approach 13. Psychopathology: Psychodynamic approach 14. Psychopathology: Behavioral approach 15. Psychopathology: Cognitive approach						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとられず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書などで当該の箇所を読んで理解しておく必要がある。 授業前学習：概論書での学習、英語長文の翻訳作業(3時間以上)。 授業後学習：授業で指摘された点の復習等(1時間以上)。						
授業方法	論文講読						
評価基準と評価方法	課題(70%)、授業態度(30%) 課題：授業での課題発表を総合的に評価する。 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。						
履修上の注意	日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。 大学院入試の受験勉強は孤独になりがちであるが授業で仲間をみつけて欲しい。						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P31020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリングの基礎的な考え方や技法について学び、その習得を目指す。						
授業の概要	カウンセリングに関する基礎的な考え方や技法について学び、コミュニケーション・スキルを向上させ、援助技法を習得する。ワークやロールプレイ（役割演技）などの演習やグループ・ディスカッションを通して全員が体験的に学びを深める中で、講師が適宜指摘や解説を加える。						
到達目標	1. カウンセリングの基礎的な考え方や技法について説明できる。【知識・理解】 2. コミュニケーション・スキルを活用した応答ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 3. カウンセリングの基礎的な技法をロールプレイによる模擬カウンセリングの中で活用できる。【汎用的技能】 【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業についての概要 第2回 カウンセリングの基本 コミュニケーション 第3回 カウンセリングの基本技法① 傾聴 第4回 傾聴技法① 言語的な応答 第5回 傾聴技法② 準言語的な応答 第6回 傾聴技法③ 非言語的な応答 第7回 カウンセリングの基本技法② 質問 第8回 質問技法① 質問と想像 第9回 質問技法② 質問による明確化 第10回 質問技法③ 質問と会話の方向性 第11回 カウンセリングの基本技法③ まとめ 第12回 カウンセリングの実践① 基本編 第13回 カウンセリングの実践② 応用編 第14回 カウンセリングの実践③ まとめ 第15回 まとめと試験</p> <p>授業での演習やグループ・ディスカッションを支援するため、TAを各回の授業に配置しています。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：カウンセリングに関する書籍を読み、カウンセリングについてイメージしておく。（学習時間：60分） 授業後学習：講義で学んだ理論や技法の日常的な応用を試みる。また、これらが実際の臨床場面でどのように活用されているのかについて、書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：120分）</p>						
授業方法	ワークやロールプレイなどの演習やグループ・ディスカッションを中心に進めつつ、適宜資料を提示しながら講義を行う。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習やディスカッションへの取り組み 50%：（到達目標2. および3. に関する到達度の確認） ・試験 50%：※3回以上欠席した者は受験資格を失う（到達目標1. に関する到達度の確認） <p>課題に対するフィードバック ・演習やディスカッションにおいて生じた疑問には、その場ないし翌週に回答・解説する。 ・試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。</p>						
履修上の注意	演習やグループ・ディスカッションが中心となるため、他の受講生の迷惑とならないよう遅刻・欠席は慎むこと。						
教科書	なし						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『暮らしの中のカウンセリング入門 心の問題を理解するための最初歩』、神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科、北大路書房、ISBN 9784762829413 ・『プロのカウンセラーが教えるはじめての傾聴術』、古宮昇、ナツメ社、ISBN 9784816353475 ・『プロカウンセラーの聞く技術』、東山紘久、創元社、ISBN9784422112572 						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P31020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリングの基礎的な考え方や技法について学び、その習得を目指す。						
授業の概要	カウンセリングに関する基礎的な考え方や技法について学び、コミュニケーション・スキルを向上させ、援助技法を習得する。ワークやロールプレイ（役割演技）などの演習やグループ・ディスカッションを通して全員が体験的に学びを深める中で、講師が適宜指摘や解説を加える。						
到達目標	1. カウンセリングの基礎的な考え方や技法について説明できる。【知識・理解】 2. コミュニケーション・スキルを活用した応答ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 3. カウンセリングの基礎的な技法をロールプレイによる模擬カウンセリングの中で活用できる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業についての概要 第2回 カウンセリングの基本 コミュニケーション 第3回 カウンセリングの基本技法① 傾聴 第4回 傾聴技法① 言語的な応答 第5回 傾聴技法② 準言語的な応答 第6回 傾聴技法③ 非言語的な応答 第7回 カウンセリングの基本技法② 質問 第8回 質問技法① 質問と想像 第9回 質問技法② 質問による明確化 第10回 質問技法③ 質問と会話の方向性 第11回 カウンセリングの基本技法③ まとめ 第12回 カウンセリングの実践① 基本編 第13回 カウンセリングの実践② 応用編 第14回 カウンセリングの実践③ まとめ 第15回 まとめと試験</p> <p>授業での演習やグループ・ディスカッションを支援するため、TAを各回の授業に配置しています。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：カウンセリングに関する書籍を読み、カウンセリングについてイメージしておく。（学習時間：60分） 授業後学習：講義で学んだ理論や技法の日常的な応用を試みる。また、これらが実際の臨床場面でどのように活用されているのかについて、書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：120分）</p>						
授業方法	ワークやロールプレイなどの演習やグループ・ディスカッションを中心に進めつつ、適宜資料を提示しながら講義を行う。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習やディスカッションへの取り組み 50%：（到達目標2. および3. に関する到達度の確認） ・試験 50%：※3回以上欠席した者は受験資格を失う（到達目標1. に関する到達度の確認） <p>課題に対するフィードバック ・演習やディスカッションにおいて生じた疑問には、その場ないし翌週に回答・解説する。 ・試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。</p>						
履修上の注意	演習やグループ・ディスカッションが中心となるため、他の受講生の迷惑とならないよう遅刻・欠席は慎むこと。						
教科書	なし						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『暮らしの中のカウンセリング入門 心の問題を理解するための最初歩』、神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科、北大路書房、ISBN 9784762829413 ・『プロのカウンセラーが教えるはじめての傾聴術』、古宮昇、ナツメ社、ISBN 9784816353475 ・『プロカウンセラーの聞く技術』、東山紘久、創元社、ISBN9784422112572 						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	感情・人格心理学／人格心理学						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	感情と人格について心理学の視点からその働きを学ぶ						
授業の概要	感情と人格について、その概念や心理学的な理解のあり方を学ぶ。感情はどのように生じてきて、それが日常生活のあり方にどのように影響するのか、人格はどのような過程を経て形成されるのか、人格の働きが対人関係や日常生活のあり方にどのように関係しているかを学ぶ。						
到達目標	(1) 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。【知識・理解】 (2) 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。【知識・理解】 (3) 人格の概念及び形成過程について概説できる。【知識・理解】 (4) 人格の類型、特性等について概説できる。【知識・理解】 (5) 感情や人格のアセスメントの方法を理解している。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：感情と人格について学ぶことの意義について 2. 感情の基礎理論 3. 感情と身体の関係 4. 感情と行動の相互関係(1)：促進的影響 5. 感情と行動の相互関係(2)：抑制的影響 6. 感情と日常生活への不適応 7. 感情のアセスメント 8. 人格とは何か 9. 人格の形成過程 10. 人格の理解(1)：類型論 11. 人格の理解(2)：特性論 12. 人格の理解(3)：力動論 13. 人格と日常生活への不適応 14. 人格のアセスメント 15. 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと（2時間）。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（2時間）。						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容的確さ等を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 期末試験：授業を通じた感情心理学、人格心理学についての理解度を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習・言語心理学A／学習心理学						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学習に関わる心の仕組み						
授業の概要	学習とは、経験を通して行動や知識が変化することを指します。私たちは環境に適応するために学習をします。たとえば、危険を察知して逃げるための情報、学校等で獲得するさまざまな知識、他者とうまくやっていくためのふるまい方や行動等の獲得も学習を通じて行われます。講義では、このよう学習を可能にする心の仕組みについて解説します。						
到達目標	1) 人が学ぶ過程を理解することができる【知識・理解】 2) ①人の行動が変化する過程が理解できるようになる【知識・理解】 3) 日常の様々な学習場面を理論と照らし合わせて考えられるようになる【知識・理解】 ①は公認心理師カリキュラムにおける大項目						
授業計画	1. 学習心理学とは 2. 古典的条件付け1 3. 古典的条件付け2 4. オペラント条件付け1 5. オペラント条件付け2 6. 学習によらない行動変化：生得的反応 7. 知識獲得のメカニズム：記憶1 8. 知識獲得のメカニズム：記憶2 9. 学習意欲1 10. 学習意欲2 11. 心理臨床と学習心理学 12. 学習指導と学習心理学 13. 学習障害と学習心理学 14. まとめと試験 15. 試験のおさらい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書をしっかり読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（2時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 * 欠席回数自分で把握しておきましょう。欠席数に関する問い合わせは原則受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	太田信夫・中條和光(2019)学習心理学. 北大路書房. ISBN-10: 4762830488						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習・言語心理学B						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1203B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語獲得と発達の仕組み						
授業の概要	私たちは母語である日本語を自然に獲得してきました。しかし、外国語となるとそうはいきません。なぜ、母語は簡単で外国語は難しいのでしょうか。赤ちゃんのころからまわりの大人がしゃべっているのを聞いているだけでことばは自然と学習されますが、なぜそのようなことが可能なのでしょうか。この講義では、言語獲得と発達の仕組みについて考えます。						
到達目標	1) ①言語の習得における機序について理解できるようになる【知識・理解】 2) 言語に関する理論と研究について知ることができる【知識・理解】 3) 社会的相互作用を通じた言語獲得について説明できるようになる【知識・理解】 4) 言語獲得の生得的メカニズムについて説明できるようになる【知識・理解】 ①は公認心理師カリキュラムの大項目。						
授業計画	1. 言語発達とはなにか 2. 前言語期1 3. 前言語期2 4. 音韻の発達 5. 語彙の獲得 乳幼児期 6. 語彙の獲得 児童期 7. 文法の発達 8. 形態素の発達 9. 語用論の発達 10. 言語発達における差：個人差 11. 言語発達における差：デモグラフィックス 12. バイリンガルの言語発達1 13. バイリンガルの言語発達2 14. まとめと期末試験 15. 期末試験のおさらい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書を読み込んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックの予習（2時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 * 欠席回数は自分で把握しておきましょう。欠席数に関する問い合わせは原則受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	岩立志津夫・小椋たみ子(2017)よくわかる言語発達 (改定新版). ミネルヴァ書房. ISBN-10: 4623080331 *これ以前の版もありますが、2017年以降の「改定新版」を購入してください。						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	教育・学校心理学／学校と臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	P33120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	教育的課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	教育現場において生じる諸課題及びその背景について、また教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 ワークや発表またはレポートを通じて、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。						
到達目標	①教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。【知識・理解】 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。【汎用的技能】 ③授業を通じて得た知識や理解を自己理解や日常生活上の諸課題の理解に応用できる。また、それを言語化し、他者に伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入 ～授業の進め方、集団としての学校～ 第2回 学校の集団心性 第3回 いじめの心理(1) 第4回 いじめの心理(2) 第5回 いじめの心理(3) 第6回 不登校の心理(1) 第7回 不登校の心理(2) 第8回 不登校の心理(3) 第9回 学ぶことと心理(1) 第10回 学ぶことと心理(2) 第11回 学ぶことと心理(3) 第12回 教師という仕事 第13回 スクールカウンセラーという仕事 第14回 まとめと試験 第15回 課題発表、試験解説						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献購読、ワークまとめ。(2時間) 授業後学習：文献購読、課題。(2時間)						
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	授業レポート(40%)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 試験 ※持ち込み可(30%)：到達目標①および②に関する到達度の確認。 課題1(授業ワークのまとめ、レポート、発表のいずれか)(30%)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 ※課題1のテーマ(レポート、発表)：学校に関連する素材、または参考文献の内容について、授業内容と関連づけ説明する。 課題2(素材カード)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 ※課題1は必ず行ってください。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう。						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa) (Pb) 本を読み発表する(1) (Pc) (Pd) (指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc) (Pd) 本を読み発表する(1) (Pa) (Pb) 第4回 本を読み発表する(2) (まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1) (同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る (心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2) (各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3) (班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4) (作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1) (班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2) (各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1) (各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2) (発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1) (各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点（60%）：到達目標1の達成度確認 授業態度（20%）：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表（20%）：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう。						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa) (Pb) 本を読み発表する(1) (Pc) (Pd) (指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc) (Pd) 本を読み発表する(1) (Pa) (Pb) 第4回 本を読み発表する(2) (まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1) (同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2) (各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3) (班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4) (作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1) (班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2) (各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1) (各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2) (発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1) (各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点（60%）：到達目標1の達成度確認 授業態度（20%）：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表（20%）：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう。						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa) (Pb) 本を読み発表する(1) (Pc) (Pd) (指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc) (Pd) 本を読み発表する(1) (Pa) (Pb) 第4回 本を読み発表する(2) (まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1) (同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2) (各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3) (班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4) (作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1) (班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2) (各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1) (各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2) (発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1) (各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点（60%）：到達目標1の達成度確認 授業態度（20%）：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表（20%）：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう。						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa) (Pb) 本を読み発表する(1) (Pc) (Pd) (指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc) (Pd) 本を読み発表する(1) (Pa) (Pb) 第4回 本を読み発表する(2) (まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1) (同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る (心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2) (各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3) (班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4) (作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1) (班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2) (各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1) (各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2) (発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1) (各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点（60%）：到達目標1の達成度確認 授業態度（20%）：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表（20%）：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう。						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう。						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう。						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう。						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	健康・医療心理学／医療と臨床心理学						
担当教員	室屋 賢士					科目ナンバ-	P33110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	医療現場において臨床心理学がどのように活かされているかを学び、精神疾患などの知識のみならず具体的な臨床心理学的アプローチといった実践的な知識についても理解を深める。						
授業の概要	『医療』は臨床心理学が実践されている現場の一つである。本講義では、医療現場において働く臨床心理士ならびに公認心理師に求められる知識や具体的な臨床心理学的アプローチについて学習していく。また、医療の現場では、医師、看護師、その他様々な職種と関わり、連携していくことが求められる。そのため、本講義では、他職種連携についても取り扱う。						
到達目標	① ストレスと心身の疾病との関係について説明することができる。【知識・理解】 ② 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明することができる。【知識・理解】 ③ 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明することができる。【知識・理解】 ④ 災害時等に必要な心理に関する支援について説明することができる。【知識・理解】 ⑤ 学習した心理技法を実際に使用したり、日常に般化することができる。【汎用的技能】 ⑥ 学習した内容について疑問を持ち、それを議題としてあげることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 本講義についての概要 第2回 医療現場において心理職に期待されること、役割について 第3回 医療現場で求められる知識① 精神疾患Ⅰ 第4回 医療現場で求められる知識② 精神疾患Ⅱ 第5回 医療現場で求められる知識③ 精神疾患Ⅲ 第6回 医療現場で求められる知識④ 発達障害 第7回 医療現場で用いられる心理技法① 心理アセスメント（知能検査） 第8回 医療現場で求められる心理技法② 心理アセスメント（投映法） 第9回 医療現場で求められる心理技法③ 心理アセスメント（質問紙法） 第10回 医療現場で求められる心理技法④ 認知行動療法Ⅰ 第11回 医療現場で求められる心理技法⑤ 認知行動療法Ⅱ 第12回 医療現場で求められる心理技法⑥ その他の心理療法 第13回 他職種との連携 第14回 講義のまとめ 第15回 試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：メディアなどで取り上げられているメンタルヘルスなどに興味を持ち、積極的に調べたうえで、それを講義に持ち込むこと（学習時間：2時間）。 授業後学習：講義で学習した内容について、参考書籍や論文を読むこと（学習時間：2時間）。						
授業方法	パワーポイントにて資料を提示しながら講義を行う。また、いくつかの心理尺度を使用し、心理アセスメントを経験してもらう。						
評価基準と評価方法	試験：70% 授業態度（質疑応答などの積極的な授業参加ならびに平常点）：30%						
履修上の注意	・私語厳禁 ・病院臨床に興味・関心のある学生の受講を望む。						
教科書	特になし。参考資料についてはその都度、講義中に紹介する。						
参考書	その都度、講義中に紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	松元 佑					科目ナンバ-	P22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	行動観察法について学ぶなかで、心理学における研究の取り組み方や考え方について理解すること。						
授業の概要	この授業では、心理学の研究の進め方、まとめ方を習得することを目的とする。具体的には、授業で学んだ行動観察法を演習や課題で取り組んでいく。そして、得られたデータを分析し、結果としてまとめていくなかで、心理学の研究の進め方を理解する。						
到達目標	心理学の研究の目的と方法の設定をすることができる。そして、結果のまとめ方としてデータの分析と図表の作成、考察もすることが出来る。						
授業計画	第1回：行動観察法について（授業の概要と進め方について） 第2回：観察法の基礎① 第3回：観察法の基礎② 第4回：時間見本法の理論と手法 第5回：事象見本法の理論と手法 第6回：産物記録法の理論と手法 第7回：参与観察とアクション・リサーチについて 第8回：心理学の研究倫理について 第9回：心理学における信頼性と妥当性について 第10回：データの分析①（記述統計） 第11回：データの分析②（推測統計①） 第12回：データの分析③（推測統計②） 第13回：心理学における観察研究の進め方 第14回：心理学における観察研究のまとめ方 第15回：これまでの講義のまとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて予習し、授業の最後に示すキーワードについて、指定した参考書籍等によって下調べをすること（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、次回の授業で担当教員に提出する（学習時間：2時間）						
授業方法	2回目から14回目までは基本的に講義形式を用いる。その中で実際に行動観察の演習、課題も実施していく。具体的には、授業で取り組んだ課題のデータを分析し、まとめいく。また、課題では自身の興味・関心がある先行研究をまとめて課題レポートとして提出する予定である。						
評価基準と評価方法	平常点（練習課題や質疑応答等）40%：平常点は講義への参加・授業態度、練習課題の取り組み方を元に算出する。 期末テスト60%						
履修上の注意	授業の配布資料は、各回の出席者のみ配布する。 欠席した者は、次回の授業で配布する。（担当教員に申し出ること。） 行動観察の演習を実施するため、協力して課題に取り組むこと。 授業回数の3分の2以上（6回以上）の出席に満たない者は期末試験の受験資格を失うものとする。 15分以上の遅刻は2分の1欠席として計算する。 授業計画は受講生の理解度に合わせて適宜変更する。						
教科書							
参考書	『心理学基礎演習Vol.3 観察法・調査的面接法の進め方』、松浦均・西口利文編、ナカニシヤ出版、ISBN978-4-7795-0290-3 『心理学マニュアル 観察法』、中澤潤・大野木裕明・南博文編、北大路書房、ISBN4-7628-2076-8						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	公認心理師の職責						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P73010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	公認心理師の職務、法的義務などを学ぶ。						
授業の概要	公認心理師の職務の内容、法的義務、倫理面で遵守すべきこと、自己研鑽のあり方などについて、幅広く学ぶ。公認心理師の資格が、社会のどのような要請のもとに創設され、どのような役割が期待されているかを概観し、公認心理師の目指すべき姿について学ぶ。						
到達目標	(1) 公認心理師の役割について説明できる。【態度・志向性】 (2) 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。【態度・志向性】 (3) 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。【態度・志向性】 (4) 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に扱うことができる。【態度・志向性】 (5) 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本科目の位置づけと目的について 2. 公認心理師の役割 3. 公認心理師の法的義務・倫理 4. クライアントらの安全の確保のために 5. 情報の適切な取り扱いについて 6. 保健医療分野における公認心理師の業務 7. 福祉分野における公認心理師の業務 8. 教育分野における公認心理師の業務 9. 司法・犯罪分野における公認心理師の業務 10. 産業・労働分野における公認心理師の業務 11. 支援者としての自己課題発見・解決能力 12. 生涯学習への準備 13. 他職種連携と地域連携 14. 公認心理師の今後の展開 15. 授業のまとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと（2時間）。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（2時間）。						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容的確さ等を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 期末試験：授業を通じた公認心理師の職責についての理解度を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	『公認心理師の職責』、野島一彦編、遠見書房、2018年、ISBN978-4-86616-051-1						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P01010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の入門講座						
授業の概要	日常生活における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心をめぐって生じるさまざまな事象について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 臨床心理学に関連する資格や職業についても学びます。 ワークや発表またはレポートを通じて、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。						
到達目標	①身近な出来事や社会的現象について、臨床心理学的な観点から考え説明することができる。【知識・理解】 ②授業を通じて得た知識や理解を自己理解や日常生活上の諸課題の理解に応用できる。また、それを言語化し、他者に伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入 ～心のふしぎ道の歩み方～ 第2回 心的構造論(1) ～なぜうっかりしてしまうのか?～ 第3回 心的構造論(2) ～夢うらないは本当か?～ 第4回 心的構造論(3) ～なぜ自分にうそをつくのか?～ 第5回 心的発達論(1) ～みんなおっぱいで大きくなった!～ 第6回 心的発達論(2) ～自分探しとはどういうことか?～ 第7回 心理査定と心理療法(1) ～心の重さははかれるか?～ 第8回 心理査定と心理療法(2) ～心を病むとはどういうことか?～ 第9回 心理査定と心理療法(3) ～心が癒えるとはどういうことか?～ 第10回 集団の心理(1) ～心はどうやってつながるのか?～ 第11回 集団の心理(2) ～つながりの破壊としての犯罪～ 第12回 集団の心理(3) ～集団も心の病にかかるのか?～ 第13回 心理の資格と仕事 第14回 まとめと試験 第15回 課題発表「私にとっての心のふしぎ」、試験解説						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:文献購読。(2時間) 授業後学習:文献購読、課題。(2時間)						
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	授業レポート(40%):到達目標①および②に関する到達度の確認。 試験 ※持ち込み可(30%):到達目標①に関する到達度の確認。 課題1(レポートもしくは発表)(30%):到達目標①および②に関する到達度の確認。 ※課題1のテーマ:「私にとっての心のふしぎ」に関する素材、または参考文献の内容について、授業内容と関連づけ説明する。 課題2(素材カード):到達目標①および②に関する到達度の確認。 ※課題1は必ず行ってください。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P43070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	子育てとその支援について、社会・地域・個人の観点から基礎的な知識を学ぶとともに、子育ての中で生じる感情について考える。						
授業の概要	子育てに関する発達心理学・臨床心理学・社会福祉的な知見を学びながら、子育ての中で生じる様々な困難さやその支援についての基礎的な知識を学ぶ。						
到達目標	1. 子育てやその支援をする上で必要となる資源（機関や法律など）についての知識を持ち、人に説明できる。【知識・理解】 2. 子育てという日常の営みが持つ楽しさと苦しさをどちらも理解することができる。【汎用的技能】 3. 子育て支援について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション ～子育てを支援すること～ 第2回：妊娠から出産まで ～親はいつから親になるの？～ 第3回：乳児の子育て① ～子どもに心はいつから宿るの？～ 第4回：乳児の子育て② ～ママだから子育てができるの？～ 第5回：家庭の中で生じる困難さ① ～“虐待”してしまう想い～ 第6回：家庭の中で生じる困難さ② ～子育てにパパが必要？～ 第7回：子育てを取り巻く環境 ～育て方と働き方～ 第8回：幼児の子育て① ～自分の形ができ始める頃～ 第9回：幼児の子育て② ～家庭以外の子どもの過ごす場所ってどこ？～ 第10回：ふりかえりと中間試験 第11回：子育て支援における“聞き方”を学ぼう 第12回：“ほどよい”子育てについて考えよう 第13回：セラプレイ的遊びから学ぶ親子の関係支援 第14回：子どもに必要な安心感 ～アタッチメントと安心感の輪①～ 第15回：親だっって必要な安心感 ～アタッチメントと安心感の輪②～						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、子どもや家族に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：2時間）						
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標2,3の達成度確認 中間試験（30%）：到達目標1の達成度確認 期末レポート（40%）：到達目標2,3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 レポートや試験に関しても、重要な内容は適宜紹介と振り返りを行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する						
参考書	大豆生田啓友・太田光洋・森山史朗（編）（2014）『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房。ISBN：978-4-623-06948-4						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業・組織心理学／産業カウンセリング論						
担当教員	千葉 征慶					科目ナンバ-	P43020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	職場における問題と支援方法について、および、組織における人の行動について、産業・組織心理学や組織行動の知見をもとに解説する。						
授業の概要	心理職が人と組織をクライアントとして見立ててアプローチするうえで必須の知識として、 ①組織で働く人々が心身ともにいきいきと働き、組織の生産性の向上にもつながるようになるための視点を紹介する。 ②組織を形成する個人に起こる心理と行動を明らかにし、職場の個人間の人間関係、チーム、部署ごとの関係、それらが組織に与える影響、組織の文化や風土について解説する。						
到達目標	(1)職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援について説明できる。【知識・理解】 (2)組織における人の行動について説明できる。【知識・理解】 (3)積極的傾聴技法、ストレスチェックの手法を、日頃の対人関係に応用できる。【汎用的技能】 (4)組織の諸問題やキャリア諸理論を学ぶなかで自分自身に向き合い自己理解が深まる。【態度・志向性】						
授業計画	第一回：産業組織におけるカウンセリング ～産業・組織心理学とは～ 第二回：メンタルヘルス教育の実際1 ～職業性ストレスとメンタルヘルス～ 第三回：メンタルヘルス教育の実際2 ～産業・組織分野における心理学的アセスメント～ 第四回：メンタルヘルス教育の実際3 ～リーダーシップ理論～ 第五回：メンタルヘルス事例対応の実際 ～作業改善・安全衛生、産業・組織分野での活動の倫理～ 第六回：面接相談の基本を学ぶ1 ～産業・組織分野における心理学的援助～ 第七回：面接相談の基本を学ぶ2 ～積極的傾聴法の要所～ 第八回：面接相談の基本を学ぶ3 ～職場集団のダイナミクスとコミュニケーション～ 第九回：面接相談の基本を学ぶ4 ～面接場面のビデオ学習～ 第十回：面接相談の基本を学ぶ5 ～キャリア形成～ 第十一回：背景知識を学ぼう1 ～組織成員の心理と行動～ 第十二回：背景知識を学ぼう2 ～消費者行動～ 第十三回：背景知識を学ぼう3 ～人事・ヒューマンリソースマネジメント～ 第十四回：背景知識を学ぼう4 ～産業・組織分野の制度・法律～ 第十五回：まとめ、質疑応答、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べする(学習時間2時間) 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。 松蔭manaba「小テスト」に掲載する理解度確認テストで理解度を確かめる(学習時間2時間)						
授業方法	講義：テーマの導入を図る「下調べの内容」について、グループまたはペアによるディスカッションを行う。 グループまたはペアのワークの報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	試験、下調べの「レポート」（下調べしたキーワードについて報告する）内容・記述の正確さ等、授業の振り返り「アンケート」の内容と提出状況、「小テスト」の活用状況、そして授業態度（欠席・遅刻の頻度、グループやペアでのディスカッションに臨む態度）を評価する。 数式で表すならば、 成績100＝試験(50)＋「レポート」(20)＋「アンケート」(10)＋「小テスト」(10)＋授業態度(10)						
履修上の注意	①下調べした内容の「レポート」は、授業の前までに松蔭manaba「レポート」で提出すること。 ②授業の振り返り「アンケート」は、当日を含む三日以内に松蔭manaba「アンケート」で提出すること。 ③講師が授業で用いる資料を配布する。 ④授業の初めに、下調べしたキーワードについてグループまたはペアでディスカッションを行うので、遅刻しないこと。						
教科書							
参考書	「産業・組織心理学エッセンシャルズ【第4版】」外島裕、田中堅一郎 ナカニシヤ出版 ISBN-13：978-4779513855 「産業・組織カウンセリング実践の手引き-基礎から応用への全7章」三浦由美子、磯崎富士雄、斎藤壮司 遠見書房 ISBN-13：978-4866160436 「公認心理師の基礎と実践②—産業・組織心理学」野島和彦・繁樹算男監修 新田泰生編 遠見書房 ISBN：978-4-86616-070-2						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会・集団・家族心理学A／社会心理学A						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P1204A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自己、対人関係に関する社会心理学の知見、理論を習得する。						
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響について理解すべく、自己、対人関係に関する社会心理学の知見、理論を学習する。						
到達目標	① 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程について、理解し人に説明できる。【知識・理解】 ② 人の態度及び行動についての理論を理解している。【知識・理解】 ③ 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、人に説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 社会心理学とは 第2回 社会心理学の方法・社会行動の原則 第3回 対人認知、ステレオタイプと偏見 第4回 帰属 第5回 印象形成 第6回 自己意識、自己概念、自尊心 第7回 社会的比較 第8回 対人魅力 第9回 対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション 第10回 自己開示 第11回 認知的整合性、態度の機能と構造 第12回 説得による態度と行動の変化 第13回 社会的影響 第14回 前期授業の補足、質疑応答 第15回 前期試験と後期授業の説明						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が1分間ずつで説明をする。						
評価基準と評価方法	平常点（今後にかける授業内容に関する小レポート） 30%，定期試験 70%						
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携						
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」 土肥伊都子（編著） 保育出版社 2014						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会・集団・家族心理学B／社会心理学B						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P1204B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	集団、家族、文化に関する社会心理学の知見、理論を習得						
授業の概要	集団、家族、および文化が個人に及ぼす影響について理解すべく、家族の機能や家族内人間関係、家族と社会との関係について学習する。						
到達目標	① 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程について、理解し人に説明できる。【知識・理解】 ② 人の態度及び行動についての理論を理解している。【知識・理解】 ③ 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、人に説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 同調と服従、意思決定 第2回 集団・組織規範、制度 第3回 援助・攻撃行動 第4回 リーダーシップ 第5回 文化的存在としての人間、異文化接触 第6回 集団としての家族の普遍性と特殊性 第7回 家族の機能（性、情緒、社会化） 第8回 家族の発達段階、夫婦関係 第9回 生殖革命、育児 第10回 親子・きょうだい関係 第11回 食・住文化と家族関係 第12回 ワークライフバランス 第13回 高齢化社会における家族と福祉 第14回 補足説明と質疑応答 第15回 後期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が、1分間ずつで説明する。						
評価基準と評価方法	平常点（今後活かせる授業内容に関するレポート） 30%、定期試験 70%						
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携						
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」 土肥伊都子（編著） 保育出版社 2014 （第1回から第5回まで） 「学びを人生へつなげる家族心理学」 土肥伊都子（編著） 保育出版社 2017 （第6回から第14回まで）						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	谷 芳恵					科目ナンバ-	P22040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学調査の手法および統計ソフト操作方法を習得する						
授業の概要	心理学調査法の一手法である質問紙調査について学習します。質問紙の作成から統計ソフトを用いた分析までの実習を行い、卒業論文執筆に必要な統計手法を身につけることを目指します。						
到達目標	1) 心理学調査に使用される統計手法を理解し、数値の読み取りができるようになる【知識・理解】 2) 調査目的に応じたデータの収集・分析方法を自分で選択できるようになる【汎用性技能】 3) 統計ソフトSPSSの操作方法を習得する【汎用性技能】						
授業計画	第1回 心理学調査の方法を知る 第2回 心理学調査を計画する 第3回 質問紙を作成する 第4回 データを入力・整理する 第5回 データを読む：単純集計 第6回 2つの変数の関係を調べる：相関 第7回 クロス集計表を解析する： χ^2 検定 第8回 7回までを振り返る：小テスト 第9回 平均値を比べる1：t検定 第10回 平均値を比べる2：分散分析 第11回 合成変数を作る：主成分分析 第12回 共通因子を見つける：因子分析 第13回 結果を解釈し、考察する 第14回 13回までを振り返る：小テスト 第15回 授業のまとめ/最終試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業の内容はもちろん、「心理学統計法/統計基礎論」の内容についても復習した上で毎回の授業に臨んでください。必要であれば、統計に関する図書、ネットサイトなども利用してください。また、不定期的にHWを出します。基本的なパソコン操作は理解しているものとして授業を行います。 授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前にパソコンを用いて課題を行っておく(2時間) 授業後学習：授業で行った分析の内容を確認し、SPSSの操作について復習する。また、HWの課題を行い、理解度を確かめる(2時間)						
授業方法	講義（実習を含みます）						
評価基準と評価方法	平常点(30%) 実習への取り組み、課題・HWへの取り組みを総合的に評価します。HWは添削後、各自にフィードバックします。 試験(70%) (1)小テスト2回：授業前半/後半の2回、小テストを実施します。小テストは添削後返却し、各自の到達度の確認に活用します。 (2)最終試験：授業全体における到達度の確認を行います。						
履修上の注意	「心理学統計法/統計基礎論」単位修得者のみ受講可能です（履修制限40名）。全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。遅刻は欠席になります。受講の際には私語や携帯電話の操作を慎むなど、最低限のマナーを守り、他の受講生に迷惑をかけないようにしてください。守れない場合には、退席していただくこともあります。授業計画は、必要に応じて変更することがあります。						
教科書	寺島拓幸・廣瀬毅士（2015）. SPSSによるデータ分析 東京図書 ISBN978-4489022142						
参考書	必要に応じて紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	水澤 慶緒里					科目ナンバ-	P22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学調査の手法および統計ソフト操作方法を習得する						
授業の概要	心理学調査法の一手法である質問紙調査について学習します。質問紙の作成から統計ソフトを用いた分析までの実習を行い、卒業論文執筆に必要な統計手法を身につけることを目指します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 心理学調査に使用される統計手法を理解し、数値の読み取りができるようになる【知識・理解】 2) 調査目的に応じたデータの収集・分析方法を自分で選択できるようになる【汎用性技能】 3) 統計ソフトSPSSの操作方法を習得する【汎用性技能】 						
授業計画	第1回 心理学調査の方法を知る 第2回 心理学調査を計画する 第3回 質問紙を作成する 第4回 データを入力・整理する 第5回 データを読む：単純集計 第6回 2つの変数の関係を調べる：相関 第7回 クロス集計表を解析する： χ^2 検定 第8回 7回までを振り返る：小テスト 第9回 平均値を比べる1：t検定 第10回 平均値を比べる2：分散分析 第11回 合成変数を作る：主成分分析 第12回 共通因子を見つける：因子分析 第13回 結果を解釈し、考察する 第14回 13回までを振り返る：小テスト 第15回 授業のまとめ/最終試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業の内容はもちろん、「心理学統計法/統計基礎論」の内容についても復習した上で毎回の授業に臨んでください。必要であれば、統計に関する図書、ネットサイトなども利用してください。また、不定期的に宿題を出します。基本的なパソコン操作は理解しているものとして授業を行います。 授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前にパソコンを用いて課題を行っておく(2時間) 授業後学習：授業で行った分析の内容を確認し、SPSSの操作について復習する。また、宿題の課題を行い、理解度を確かめる(2時間)						
授業方法	講義（実習を含みます）						
評価基準と評価方法	平常点(30%) 実習への取り組み、課題・宿題への取り組みを総合的に評価します。宿題は、次の授業で全体に向けてフィードバックして知識を共有すると共に、必要な箇所は個別にフィードバックします。 試験(70%) (1)小テスト2回：授業前半/後半の2回、小テストを実施します。小テストは添削後返却し、各自の到達度の確認に活用します。 (2)最終試験：授業全体における到達度の確認を行います。						
履修上の注意	「心理学統計法/統計基礎論」単位修得者のみ受講可能です（履修制限40名）。全ての講義に出席することが望ましいです。10以上の出席がないと、受講資格を失います。遅刻は欠席になります。受講の際には私語や携帯電話の操作を慎むなど、最低限のマナーを守り、他の受講生に迷惑をかけないようにしてください。守れない場合には、退席していただくこともあります。授業計画は、必要に応じて変更することがあります。						
教科書	寺島拓幸・廣瀬毅士（2015）. SPSSによるデータ分析 東京図書 ISBN978-4489022142						
参考書	必要に応じて紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	障害者・障害児心理学／児童期の臨床心理学						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P32060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	身体障害、知的障害及び精神障害の概要について学ぶとともに、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援についての理解の視点を育む。						
授業の概要	身体障害、知的障害及び精神障害の特徴や、そうした困難さを抱える障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について、当事者の視点に立って理解するという姿勢を養っていく。						
到達目標	1. 代表的な身体障害、知的障害及び精神障害についての知識を得て、人に説明ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 2. 障害者・障害児の心理社会的課題について、当事者の立場に立ってその困難さを具体的に人に説明ができる。【態度・志向性】【汎用的技能】 3. 障害者・障害児に対する支援について理論や法律、施設・機関などについて、人に説明ができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション ～“障害”とはなんなのだろうか～ 第2回：子どもの心と体の発達 ～発達はどこで生まれるのか～ 第3回：子どもの発達の困難さ ～“関係障害”と二次障害～ 第4回：障害のある人の視点に立つということ ～体験ワークと発表グループ作り～ 第5回：“身体障害”ってなんだろう① ～体の不自由さ～ 第6回：“身体障害”ってなんだろう② ～体の不自由さとその支援を体験する～ 第7回：“身体障害”ってなんだろう③ ～目に見えない困難さ～ 第8回：“知的障害”ってなんだろう ～理解の困難さとは～ 第9回：知能や発達を測定すること ～代表的な検査と実施の功罪～ 第10回：“発達障害”ってなんだろう① ～“外”から見る自閉症～ 第11回：“発達障害”ってなんだろう② ～“内”から見る自閉症～ 第12回：“発達障害”ってなんだろう③ ～ADHD, LD, DCDの世界を体験する～ 第13回：様々な支援技法を体験する 第14回：障害のある人を理解する体験ワークのグループ発表 第15回：振り返りと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、障害に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：2時間）						
授業方法	基本的に講義形式で行うが、必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。加えて、グループワーク（調べ学習とその成果のプレゼンテーション）を一部行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標1, 2, 3の達成度確認 グループ発表（35%）：到達目標2の達成度確認 期末試験（35%）：到達目標1, 2, 3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 グループ発表や試験に関しても、重要な内容は適宜補足や解説を行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	藤本浩一・金網知征・榊原久直（2019）読んでわかる児童心理学。サイエンス社。ISBN：978-4781914541 赤木 和重（2018）目からウロコ！驚愕と共感の自閉症スペクトラム入門。全国障害者問題研究会出版部。978-4881347157						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	P43040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者理解のための心理学						
授業の概要	日本のような現代の先進国は大衆消費社会であり、人間の欲望・要求を実現するとともにさらに拡張していく経済システムの下、何をかうか選択することが生活の中で大きな位置を占めている。買い物は生活の中心であるからこそ、なぜ買い物するのか客観的に考える力を持たなければならない。この授業では、どのような欲求に基づいて買い物をするのかということと、過剰な消費社会における欲求のコントロールについてまず考える。そして、心理学、行動経済学の研究成果から人間が買い物する時に示す心理・行動傾向を学び、現代社会における消費者の心理と行動を客観的に把握し分析できる力を養う。						
到達目標	(1) 消費行動と消費行動に関わる心理を理解し、把握・分析する方法を考えることができる。【汎用的技能】 (2) 現代社会における欲求のコントロールの難しさ、買い物の際に人が示す認知・行動傾向を利用した販売方法に普段から関心を持つ態度を身につける【態度・志向性】						
授業計画	第1回 はじめに一買い物の無い生活 第2回 大衆消費社会の成立 第3回 万引の心理—欲求と動機を考える 第4回 欲求とは何か： 基本的欲求 第5回 消費行動に関わる欲求1： 内発的動機と親和動機 第6回 消費行動に関わる欲求2： 達成動機と自己実現動機 第7回 欲求の模倣 第8回 欲求のコントロール1： 買い物依存の心理 第9回 欲求のコントロール2： 大衆消費社会と欲求 第10回 商品選択の心理： 選択の負担と単純接触効果 第11回 予測の効果 第12回 価格の相対性： アンカー効果とおとり効果 第13回 損して得取る難しさ： 損失回避性 第14回 時間の影響 第15回 商品選択の方略						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業内容を復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間2時間）。 授業の参考書（シラバス参考書欄にあるようにWEB上で紹介）を読む（学習時間2時間）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50% 中間レポート 30%、期末レポート 20%（ただし、両レポートの提出が必須） 授業内での提出物： 各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述的確かさを評価する。到達目標（1）と（2）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で回答する。 中間レポート： 到達目標（1）と（2）の到達度の確認。 期末レポート： 到達目標（1）と（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない。						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「消費の心理」						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	司法・犯罪心理学／非行・犯罪心理学						
担当教員	浅田 慎太郎					科目ナンバ-	P43060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	司法・犯罪領域に関する心理学						
授業の概要	司法・犯罪に関する心理学について学びます。 講師は臨床心理士として、元受刑者の立ち直りを支援しています。 その経験も踏まえて、主に、司法・犯罪領域における心理臨床について講義します。						
到達目標	①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を獲得する。 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援についての基本的知識を獲得する。						
授業計画	第1回 司法・犯罪領域、犯罪統計 第2回 犯罪者の立ち直り支援 第3回 社会構造・社会過程としての非行・犯罪 第4回 非行・犯罪のリスク・アセスメント 第5回 罪種ごとの犯罪心理学：殺人、暴力、性犯罪 第6回 罪種ごとの犯罪心理学：薬物、窃盗 第7回 司法心理療法概論 第8回 司法心理療法：空想 第9回 司法心理療法：防衛 第10回 司法心理療法：対象関係 第11回 非行とアタッチメント 第12回 犯罪とアタッチメント 第13回 精神鑑定を読む 第14回 犯罪被害者への支援 第15回 試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：事前資料をポータルを通して配布します。自分で印刷してお持ちください。それに目を通したり、参考図書を読んで予習をしてもかまいません（30分～1時間程度）。 授業後：講義内容を振り返り、復習をしてください（30分～1時間程度）。						
授業方法	講義を行います。内容によっては、グループでのディスカッションを行います。						
評価基準と評価方法	試験70% リアクションペーパー30%						
履修上の注意	欠席は3回を上限とします。 欠席が4回になった時点で、試験受験資格を失います。						
教科書	特にありません。						
参考書	犯罪統計について：『犯罪白書』『警察白書』 司法臨床について：『司法心理療法—犯罪と非行への心理学的アプローチ』『児童虐待・解離・犯罪：暴力犯罪への精神分析的アプローチ』 犯罪心理学について：『犯罪心理学事典』『犯罪行動の心理学 [原著第6版]』『犯罪心理学—行動科学のアプローチ』 このあたりがおすすめです。興味があれば読んでみてください。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	神経・生理心理学／生理心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりするということは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体のどこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの考えをまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	①脳神経系の構造及び機能について論じることができる。 ②記憶、感情等の生理学的反応の機序について論じることができる。 ③高次脳機能障害の概要について論じることができる。 ④心と身体関係を調べる神経・生理学的な方法について論じることができる。						
授業計画	第1講 神経・生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 視覚 ～なぜものが見えるのか～ 第4講 顔認識 ～なぜアヒル口が流行ったのか～ 第5講 知覚の統合 ～青い食べ物でダイエット？～ 第6講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第7講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第8講 知能 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第9講 発達 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～癒しの脳科学～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー30%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）。到達目標①②③に関する到達度の確認。 期末試験70%：到達目標④に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習A						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P3303A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得						
授業の概要	心理に関する支援を要する具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。						
到達目標	<p>（1）心理に関する支援を要するものなどに関する以下の知識及び技能を習得する。【汎用的技能】【態度・志向性】</p> <p>①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（1）授業の位置づけ、進め方、評価方法等</p> <p>第2回 オリエンテーション（2）心理支援の支援構造と法的義務</p> <p>第3回 コミュニケーション（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第4回 コミュニケーション（2）ロールプレイ</p> <p>第5回 コミュニケーション（3）事例検討</p> <p>第6回 心理検査（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第7回 心理検査（2）ロールプレイ</p> <p>第8回 心理検査（3）事例検討</p> <p>第9回 心理面接（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第10回 心理面接（2）ロールプレイ</p> <p>第11回 心理面接（3）事例検討</p> <p>第12回 地域支援等（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第13回 地域支援等（2）ロールプレイ</p> <p>第14回 地域支援等（3）事例検討</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習として各回の内容に関連した書籍の講読（学習時間：90分以上）</p> <p>授業後学習として課題レポートの作成を行う（学習時間：90分以上）</p>						
授業方法	グループワークやロールプレイ、ディスカッションを中心とする。						
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢とディスカッションの内容（50%）、各回の授業レポート（30%）及び課題レポート（20%）により到達目標の（1）の①～④に関する到達度の確認						
履修上の注意	<p>「カウンセリング基礎演習」、「基礎演習A」、「基礎演習B」、「心のふしぎ」、「心理学概論」、「心理学実験A」、「心理学実験B」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」（計13科目）のうち11科目以上の単位を修得済みであること。</p> <p>※転科生・編入生については、「心理学概論」、「カウンセリング基礎演習」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」、「心理学実験A」、「心理学実験B」（計10科目）のうち8科目以上の単位を修得済みであること。</p>						
教科書	特になし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習A						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P3303A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得						
授業の概要	心理に関する支援を擁する具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。						
到達目標	<p>（1）心理に関する支援を要するものなどに関する以下の知識及び技能を習得する。【汎用的技能】【態度・志向性】</p> <p>①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（1）授業の位置付け、進め方、評価方法等</p> <p>第2回 オリエンテーション（2）心理支援の支援構造と法的義務</p> <p>第3回 コミュニケーション（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第4回 コミュニケーション（2）ロールプレイ</p> <p>第5回 コミュニケーション（3）事例検討</p> <p>第6回 心理検査（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第7回 心理検査（2）ロールプレイ</p> <p>第8回 心理検査（3）事例検討</p> <p>第9回 心理面接（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第10回 心理面接（2）ロールプレイ</p> <p>第11回 心理面接（3）事例検討</p> <p>第12回 地域支援等（1）概要の理解とグループワーク</p> <p>第13回 地域支援等（2）ロールプレイ</p> <p>第14回 地域支援等（3）事例検討</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習として各回の内容に関連した書籍の講読（学習時間：90分以上）</p> <p>授業後学習として課題レポートの作成を行う（学習時間：90分以上）</p>						
授業方法	グループワークやロールプレイ、ディスカッションを中心とする。						
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢とディスカッションの内容（50%）、各界の授業レポート（30%）及び課題レポート（20%）により到達目標の（1）の①～④に関する到達度の確認。						
履修上の注意	<p>「カウンセリング基礎演習」、「基礎演習A」、「基礎演習B」、「心のふしぎ」、「心理学概論」、「心理学実験A」、「心理学実験B」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」（計13科目）のうち11科目以上の単位を修得済みであること。</p> <p>※転科生・編入生については、「心理学概論」、「カウンセリング基礎演習」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」、「心理学実験A」、「心理学実験B」（計10科目）のうち8科目以上の単位を修得済みであること。</p>						
教科書	特になし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習B／カウンセリング上級演習						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P3303B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得						
授業の概要	心理に関する支援を要する具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。						
到達目標	(1) 心理に関する支援を要するもの等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができる。【汎用的技能】 (2) 心理に関する支援を要するものへの現実生活を視野に入れたチームアプローチができる。【汎用的技能】 (3) 多職種連携及び地域連携ができる。【態度・志向性】 (4) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を持てる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション授業の位置づけ、進め方、評価方法等 第2回 ニーズの把握と支援計画 (1) 概要の理解とグループワーク 第3回 ニーズの把握と支援計画 (2) ロールプレイ 第4回 ニーズの把握と支援計画 (3) 事例検討 第5回 チームアプローチ (1) 概要の理解とグループワーク 第6回 チームアプローチ (2) ロールプレイ 第7回 チームアプローチ (3) 事例検討 第8回 多職種連携及び地域連携 (1) 概要の理解とグループワーク 第9回 多職種連携及び地域連携 (2) ロールプレイ 第10回 多職種連携及び地域連携 (3) 事例検討 第11回 公認心理師の職業倫理と法的義務 (1) 概要の理解とグループワーク 第12回 公認心理師の職業倫理と法的義務 (2) ロールプレイ 第13回 公認心理師の職業倫理と法的義務 (3) 事例検討 第14回 心理実習に向けて 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習として各回の内容に関連した書籍の講読（学習時間：90分以上） 授業後学習として課題レポートの作成を行う（学習時間：90分以上）						
授業方法	グループワークやロールプレイ、ディスカッションを中心とする。						
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢とディスカッションの内容（50%）、各回の授業レポート（30%）及び課題レポート（20%）により到達目標の（1）～（4）に関する到達度の確認						
履修上の注意	「カウンセリング基礎演習」、「基礎演習A」、「基礎演習B」、「心のふしぎ」、「心理学概論」、「心理学実験A」、「心理学実験B」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」（計13科目）のうち11科目以上の単位を修得済みであること。 ※転科生・編入生については、「心理学概論」、「カウンセリング基礎演習」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」、「心理学実験A」、「心理学実験B」（計10科目）のうち8科目以上の単位を修得済みであること。						
教科書	特になし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習B／カウンセリング上級演習						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P3303B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得						
授業の概要	心理に関する支援を擁する具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。						
到達目標	(1) 心理に関する支援を要するもの等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができる。【汎用的技能】 (2) 心理に関する支援を要するものへの現実生活を視野に入れたチームアプローチができる。【汎用的技能】 (3) 他職種連携及び地域連携ができる。【態度・志向性】 (4) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を持てる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の位置付け、進め方、評価方法等 第2回 ニーズの把握と支援計画 (1) 概要の理解とグループワーク 第3回 ニーズの把握と支援計画 (2) ロールプレイ 第4回 ニーズの把握と支援計画 (3) 事例検討 第5回 チームアプローチ (1) 概要の理解とグループワーク 第6回 チームアプローチ (2) ロールプレイ 第7回 チームアプローチ (3) 事例検討 第8回 多職種連携及び地域連携 (1) 第9回 多職種連携及び地域連携 (2) ロールプレイ 第10回 多職種連携及び地域連携 (3) 事例検討 第11回 公認心理師の職業倫理と法的義務 (1) 概要の理解とグループワーク 第12回 公認心理師の職業倫理と法的義務 (2) ロールプレイ 第13回 公認心理師の職業倫理と法的義務 (3) 事例検討 第14回 心理実習に向けて 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習として各回の内容に関連した書籍の講読（学習時間：90分以上） 授業後学習として課題レポートの作成を行う（学習時間：90分以上）						
授業方法	グループワークやロールプレイ、ディスカッションを中心とする。						
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢とディスカッションの内容（50%）、各界の授業レポート（30%）及び課題レポート（20%）により到達目標の（1）～（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	「カウンセリング基礎演習」、「基礎演習A」、「基礎演習B」、「心のふしぎ」、「心理学概論」、「心理学実験A」、「心理学実験B」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」（計13科目）のうち11科目以上の単位を修得済みであること。 ※転科生・編入生については、「心理学概論」、「カウンセリング基礎演習」、「臨床心理学概論A」、「臨床心理学概論B」、「心理学的支援法」、「心理的アセスメントA」、「心理的アセスメントB」、「心理学統計法」、「心理学実験A」、「心理学実験B」（計10科目）のうち8科目以上の単位を修得済みであること。						
教科書	特になし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P01020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の学問の成り立ち、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学ぶ						
授業の概要	心理学の幅広い分野を、教科書の内容にそって学習する。これにより、心理学という学問は、心のはたらきを「行動」として捉え、その法則を科学的に定立するものであることが理解できる。また、授業時間の一部を使ってできる、簡単な実験や質問紙調査を行い、自己分析も行う。						
到達目標	① 心理学の成り立ちを理解できている。【知識・理解】 ② 人の心の基本的な仕組み及び働きについて、理解できている。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション ～科学としての心理学 第2回 感覚・知覚 第3回 学習 第4回 記憶 第5回 認知 第6回 生理 第7回 情動と動機づけ 第8回 知能 第9回 パーソナリティ 第10回 発達 第11回 臨床 第12回 社会 第13回 現代社会と心理学 第14回 質疑応答、補足 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む）						
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的参加）30％、定期試験70％						
履修上の注意	座席指定 教科書を毎回、必携						
教科書	「自ら実感する心理学」 土肥伊都子（編著）（保育出版社）						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A／心理学演習A						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究に向けて、自らの研究テーマを探索する。						
授業の概要	臨床心理学領域（主に喪失やトラウマなど）の中から各自が関心を持つテーマについての文献を取り上げ、発表・討論を通して理解を深めるとともに、学術論文の形式や読み方など基本的な知識の習得を目指す。						
到達目標	(1) 研究テーマに関する文献を検索し、収集することができる。【汎用的技能】 (2) 文献講読を通して、心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）や研究における倫理について説明できるようになる。【知識・理解】【汎用的技能】 (3) データを用いた実証的な思考方法に基づき、さまざまな文献に対して自らの考えを述べる事ができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション、発表割り当て 第2回：文献の種類と論文の形式について学ぶ 第3回：文献検索の方法を学ぶ 第4回：文献講読とディスカッション（1） 第5回：文献講読とディスカッション（2） 第6回：文献講読とディスカッション（3） 第7回：文献講読とディスカッション（4） 第8回：文献講読とディスカッション（5） 第9回：文献講読とディスカッション（6） 第10回：文献講読とディスカッション（7） 第11回：文献講読とディスカッション（8） 第12回：文献講読とディスカッション（9） 第13回：文献講読とディスカッション（10） 第14回：文献講読とディスカッション（11） 第15回：授業の総括と夏期休暇中の課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマに関する文献を熟読し、発表資料を作成する（学習時間：2時間）。 授業後学習：発表や討論の内容を踏まえ、関連文献を収集する（学習時間：2時間）。						
授業方法	演習形式： 受講生による発表と討論を行う。						
評価基準と評価方法	発表（50%）：発表内容により評価する。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 平常点（50%）：質疑応答や討論への参加により評価する。到達目標（3）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	・積極的な授業参加が求められる。 ・原則として、遅刻や欠席は認めない。						
教科書	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A/心理学演習A						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の言葉や認知の発達について。						
授業の概要	乳幼児期の社会性、コミュニケーションの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達心理学についての専門的な文献を読んで理解できるようになる。【知識・理解】 ・研究に必要な手法を知ることができる。【知識・理解】 ・ゼミ主体で行うイベントやアクティビティへの参加を通じて発表・ディスカッションを通じて他者に意見を伝えることができるようになる。【汎用的技能】 ・最終的に、次年度の卒業論文につながるテーマを見つけることができる。【態度・志向性】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、自己紹介、発表割り当て 2. 個人発表とディスカッション1 3. 個人発表とディスカッション2 4. 個人発表とディスカッション3 5. 文献検索・収集1 6. 文献検索・収集2 7. 個人発表とディスカッション(文献)1 8. 個人発表とディスカッション(文献)2 9. 個人発表とディスカッション(文献)3 10. 興味のテーマの発表とディスカッション1 11. 興味のテーマの発表とディスカッション2 12. 興味のテーマの発表とディスカッション3 13. 個人発表とディスカッション(研究計画)1 14. 個人発表とディスカッション(研究計画)2 15. 夏季休暇中の課題 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	毎週、分析作業、発表資料の作成等の作業が準備として必要となるので、授業時間外での学習をきちんと行ってほしい。 授業前学習：論文講読、発表資料の作成(2時間以上)。 授業後学習：授業で指摘された箇所の確認と資料の修正(2時間以上)。						
授業方法	ゼミナール方式						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)、課題(80%) 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。 課題：論文講読、発表、レポートの作成を総合的に評価する。						
履修上の注意	発表担当者はゼミ人数分の資料(レジュメ)を用意すること。 発表担当者は担当する文献・資料などをしっかり読み、ディスカッションできるようにしておくこと。 担当に当たっていなくともディスカッションに必ず参加すること(必ず1授業1回はコメント・質問をすること)。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A／心理学演習A						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業論文作成に向けての研究						
授業の概要	4年次の卒業論文作成に向けて、研究テーマを設定し、研究論文の読み方や書き方を習得します。対象(対人)関係や集団に関連する課題を中心に、興味のあるテーマについて調べまとめた内容を発表し、ディスカッションを通して理解を深め、各自の研究テーマを決めます。						
到達目標	①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)について説明できる。【知識・理解】 ②データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 ③研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】 ④自身の興味・関心を心理学的な研究テーマとして明確にし説明できる。【知識・理解】 ⑤他者の研究テーマに関する疑問や意見を伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション(自己紹介、授業の進め方) 第2回 原子価査定テスト(1) 第3回 原子価査定テスト(2) 第4回 原子価査定テスト(3) 第5回 興味・関心の明確化(1) 第6回 興味・関心の明確化(2) 第7回 興味・関心の明確化(3) 第8回 先行研究から学ぶ(1) 第9回 先行研究から学ぶ(2) 第10回 先行研究から学ぶ(3) 第11回 研究テーマの検討(1) 第12回 研究テーマの検討(2) 第13回 研究テーマの検討(3) 第14回 中間発表(1) ※4年、大学院ゼミとの合同授業 第15回 中間発表(2) ※4年、大学院ゼミとの合同授業						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:文献購読、発表資料作成、研究計画書作成。(2時間) 授業後学習:課題、提出物の加筆修正。(2時間)						
授業方法	講義、演習(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション)。						
評価基準と評価方法	提出物(50%):到達目標①②③および④に関する到達度の確認。 ゼミ活動への参加・貢献(50%):到達目標④および⑤に関する到達度の確認。						
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 ディスカッションに積極的に参加してください。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						
参考書	ハフシ・メッド著 2010 目に見えない人と人との繋がりをはかるー原子価査定テスト(VAT)の手引き ナカニシヤ出版 ISBN10:4779504899 その他については適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A／心理学演習A						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会や身の回りの人々、自分自身をさまざまな視点や角度から見つめながら、自らの心理学的研究の探求のためのテーマを見つける						
授業の概要	卒業研究に向けて、研究の進め方の基本を学ぶとともに、各自の関心に基づいて読んだ文献について報告を行い、ディスカッションを通じて自らの関心のあり方を深める。						
到達目標	(1) 自分が関心を持つテーマに即した適切な文献を選択できる。【知識・理解】 (2) 文献を適切に読むことができる。【汎用的技能】 (3) 読んだ文献を適切に要約して報告することができる。【汎用的技能】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：自己紹介と報告の割り当て 2. 研究の進め方を学ぶ(1)：テーマの探し方 3. 研究の進め方を学ぶ(2)：文献の探し方と読み方 4. 研究の進め方を学ぶ(3)：研究の計画の立て方 5. 研究の進め方を学ぶ(4)：報告の仕方とディスカッションの仕方 6. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(1)：発表グループ1 7. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(2)：発表グループ2 8. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(3)：発表グループ3 9. 研究計画の報告とディスカッション(1)：発表グループ1 10. 研究計画の報告とディスカッション(2)：発表グループ2 11. 研究計画の報告とディスカッション(3)：発表グループ3 12. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(1)：発表グループ1 13. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(2)：発表グループ2 14. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(3)：発表グループ3 15. まとめ：総括と今後の課題 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること（2時間）。 授業後は文献の追加調査を行うこと（2時間）。						
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内での発表60%、発表についてのディスカッション40% 授業内での発表：自分のテーマに沿った適切な文献を選択して、的確に要約し報告できているかを評価する。到達目標（1）（3）に関する到達度の確認。 発表についてのディスカッション：発表に対する質問に的確に答えることができるか、他者の発表に対して的確な問いを発することができるかを評価する。到達目標（2）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：発表に対するディスカッションとコメントを通じて行う。						
履修上の注意	主体的に卒業研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A/心理学演習A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究に向けて、論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する						
授業の概要	主として子どもや子育て、親支援、障碍（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め、卒業研究に向けてテーマを探す。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献を収集し読み解く中で、心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）や研究における倫理の基礎的な知識を得て、人に説明できるようになる。【知識・理解】 2. 文献の内容をパワーポイント等を用いて発表し、ディスカッションすることができる。【汎用的技能】【知識・理解】 3. データを用いた実証的な思考方法を通して検討する自分自身の研究テーマの大まかな領域やテーマを決めることができる。【汎用的技能】 						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 自己紹介と発表の割り当て</p> <p>第2回：臨床心理学領域の研究に関する資料収集方法と論文構成について学ぶ</p> <p>第3回：文献・研究の要約や発表の仕方について学ぶ</p> <p>第4回：文献を基にした発表とディスカッション（1）研究テーマの探索</p> <p>第5回：文献を基にした発表とディスカッション（2）研究テーマリストの作成</p> <p>第6回：文献を基にした発表とディスカッション（3）リストの発表</p> <p>第7回：文献を基にした発表とディスカッション（4）研究テーマの再探索</p> <p>第8回：文献を基にした発表とディスカッション（5）研究テーマリストの追加</p> <p>第9回：文献を基にした発表とディスカッション（6）リストの再発表</p> <p>第10回：文献を基にした発表とディスカッション（7）テーマに基づく空想研究の作成</p> <p>第11回：文献を基にした発表とディスカッション（8）空想研究の発表</p> <p>第12回：文献を基にした発表とディスカッション（9）研究テーマの選定開始</p> <p>第13回：文献を基にした発表とディスカッション（10）研究テーマの決定</p> <p>第14回：文献を基にした発表とディスカッション（11）研究テーマに関する文献収集</p> <p>第15回：授業の総括と夏休みの課題について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：卒論につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約、もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い、その内容について受講生と教員がディスカッションを行い、適宜補足の指導を行う。加えて、松蔭manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。						
評価基準と評価方法	<p>ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標2の達成度確認</p> <p>発表・提出物（50%）：到達目標1,3の達成度確認</p> <p>※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。</p> <p>発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。</p>						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A／心理学演習A						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学の先行研究のレビュー						
授業の概要	社会心理学の研究分野の中から、学生自身が興味をもつテーマを選び、まとめ、発表する。以下にテーマの候補をあげる。自己・自己概念、対人認知、動機・感情、対人魅力、対人スキル、集団行動、リーダーシップ、社会的態度、ライフスタイル・価値観、精神的健康、職業意識、社会問題（ジェンダー、環境、福祉など）。						
到達目標	① 心理学における量的および質的実証的研究法が身についている。【知識・理解】 ② データを用いた実証的な思考方法ができる。【知識・理解】 ③ 研究における倫理について、認識し理解できている。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、発表割当て 第2回 個人発表と討論1（研究テーマ案） 第3回 個人発表と討論2（研究テーマ案） 第4回 個人発表と討論3（研究テーマ案） 第5回 個人発表と討論4（研究テーマ案） 第6回 文献（研究論文・著書）の収集 第7回 文献（研究論文・著書）発表1 第8回 文献（研究論文・著書）発表2 第9回 文献（研究論文・著書）発表3 第10回 文献（研究論文・著書）発表4 第11回 文献（研究論文・著書）発表5 第12回 文献（研究論文・著書）発表6 第13回 文献（研究論文・著書）発表7 第14回 文献（研究論文・著書）発表8 第15回 夏季休暇中の課題についての説明と報告書の作成方法						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：自分が関心をもつ社会心理学に関する問題についての情報収集を行う。具体的には、心理学関係の著書、新聞などに目を通す（学習時間：2時間）。 事後学習：授業内で指示したテーマ・課題について、講義ノートにまとめる。（学習時間：2時間）。						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）100%						
履修上の注意	発表の際には、ゼミ人数分のレジュメを用意すること						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A／心理学演習A						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	事象の心理学的理解						
授業の概要	受講生各自が興味をもつ心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行う。その過程で、心理学的観点に基づいた現象の理解、および研究の基本的な技法と態度を身につけることを目的とする。						
到達目標	①関心のある心の現象について、実証的研究法（量的研究及び質的研究）による研究に関する文献を読み、資料にまとめ、発表することができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 ②他者の発表を聞いて、データをを用いた実証的な思考方法に基づいたコメントをすることができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 ③心理学研究における基本的な技法と態度、また研究における倫理について、説明することができる。【知識・理解】 ④関心のある心の現象について、先行研究を検索し、文献リストを作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	#01：オリエンテーション演習の進め方について #02：心理学論文の形式 #03：文献の種類 #04：文献検索の方法 #05：受講生による発表と討論－1周目の① #06：受講生による発表と討論－1周目の② #07：受講生による発表と討論－1周目の③ #08：受講生による発表と討論－1周目の④ #09：受講生による発表と討論－1周目の⑤ #10：受講生による発表と討論－2周目の① #11：受講生による発表と討論－2周目の② #12：受講生による発表と討論－2周目の③ #13：受講生による発表と討論－2周目の④ #14：受講生による発表と討論－2周目の⑤ #15：まとめ、文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること（学習時間90分以上）。 授業後学習：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおくこと（学習時間90分以上）。						
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。						
評価基準と評価方法	発表（40%）：発表資料ならびに発表の仕方について評価する（到達目標①、③、④の到達度確認）。 討論への参加（40%）：他者の発表に対するコメントの内容について評価する（到達目標②の到達度確認）。 文献リストの提出（20%）：学期末に、関心のある領域の文献リストを作成、提出させる（到達目標④の到達度確認）。						
履修上の注意	演習科目であるので、特に出席、授業への参加を重視する。 1回の授業あたり、最低1回の発言を求める。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B／心理学演習B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。						
授業の概要	心理学研究法Aに引き続き、各自が関心を持つテーマについての文献を取り上げ、発表・討論を通して理解を深める。最終的には、卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案することを目指す。						
到達目標	(1)文献講読を通して、心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）や研究における倫理について説明できるようになる。【知識・理解】【汎用的技能】 (2)データを用いた実証的な思考方法に基づき、さまざまな文献に対して自らの考えを述べる事ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 (3)卒業研究のテーマを決め、研究計画を立てることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：文献研究に関する発表とディスカッション（1） 第2回：文献研究に関する発表とディスカッション（2） 第3回：文献研究に関する発表とディスカッション（3） 第4回：文献研究に関する発表とディスカッション（4） 第5回：文献研究に関する発表とディスカッション（5） 第6回：文献研究に関する発表とディスカッション（6） 第7回：文献研究に関する発表とディスカッション（7） 第8回：研究計画に関する発表とディスカッション（1） 第9回：研究計画に関する発表とディスカッション（2） 第10回：研究計画に関する発表とディスカッション（3） 第11回：研究計画に関する発表とディスカッション（4） 第12回：研究計画に関する発表とディスカッション（5） 第13回：研究計画に関する発表とディスカッション（6） 第14回：研究計画に関する発表とディスカッション（7） 第15回：授業の総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマに関する文献を熟読し、発表資料を作成する（学習時間：2時間）。 授業後学習：発表や討論の内容を踏まえ、関連文献を収集する（学習時間：2時間）。						
授業方法	演習形式： 受講生による発表と討論を行う。						
評価基準と評価方法	発表（50%）：発表内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 平常点（50%）：質疑応答や討論への参加により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	・積極的な授業参加が求められる。 ・原則として、遅刻や欠席は認めない。 「心理学研究法A」を履修していることが前提となる。						
教科書	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B／心理学演習B						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の言葉や認知の発達について。						
授業の概要	乳幼児期の社会性、コミュニケーションの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達心理学についての専門的な文献を読んで理解できるようになる。(知識・理解) ・研究に必要な手法を知ることができる。(知識・知識理解) ・ゼミ主体で行うイベントやアクティビティへの参加を通じて発表・ディスカッションを通じて他者に意見を伝えることができるようになる(汎用的技能)。 ・最終的に、次年度の卒業論文につながるテーマを見つけることができる。(態度・志向性) 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中の課題の提出及びテーマの修正など 2. 個人発表とディスカッション1 3. 個人発表とディスカッション2 4. 個人発表とディスカッション3 5. 文献検索・収集1 6. 文献検索・収集2 7. 個人発表とディスカッション(文献)1 8. 個人発表とディスカッション(文献)2 9. 個人発表とディスカッション(文献)3 10. 興味のあるテーマの発表とディスカッション1 11. 興味のあるテーマの発表とディスカッション2 12. 興味のあるテーマの発表とディスカッション3 13. 個人発表とディスカッション(研究計画)1 14. 個人発表とディスカッション(研究計画)2 15. 個人発表とディスカッション(研究計画)3 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	毎週、分析作業、発表資料の作成等の作業が準備として必要となるので、授業時間外での学習をきちんと行ってほしい。 授業前学習：論文講読、発表資料の作成(2時間以上)。 授業後学習：授業で指摘された箇所の確認と資料の修正(2時間以上)。						
授業方法	ゼミナール方式						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)、課題(80%) 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。 課題：論文講読、発表、レポートの作成を総合的に評価する。						
履修上の注意	発表担当者はゼミ人数分の資料(レジュメ)を用意すること。 発表担当者は担当する文献・資料などをしっかり読み、ディスカッションできるようにしておくこと。 担当に当たっていなくともディスカッションに必ず参加すること(必ず1授業1回はコメント・質問をすること)。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B／心理学演習B						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業論文作成に向けての研究						
授業の概要	4年次の卒業論文作成に向けて、「心理学研究法A／心理学演習A」において決定した研究テーマについて、文献購読等を行いさらに理解を深めます。 作成した研究計画の内容を発表し、ディスカッションを通して理解を深め、研究計画書を完成させます。						
到達目標	①心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 ②データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 ③研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】 ④自身の興味・関心を心理学的な研究テーマとして明確にし説明できる。【知識・理解】 ⑤他者の研究テーマに関する疑問や意見を伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（これまでのふりかえり、授業の進め方） 第2回 研究計画の検討(1) 第3回 研究計画の検討(2) 第4回 研究計画の検討(3) 第5回 研究計画の検討(4) 第6回 研究計画の検討(5) 第7回 研究計画の発表(1) 第8回 研究計画の発表(2) 第9回 研究計画書の作成(1) 第10回 研究計画書の作成(2) 第11回 研究計画書の作成(3) 第12回 研究計画書の作成(4) 第13回 研究計画書の作成(5) 第14回 中間発表(1) ※4年ゼミ、大学院ゼミとの合同授業 第15回 中間発表(2) ※4年ゼミ、大学院ゼミとの合同授業						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、発表資料作成、研究計画書作成。（2時間） 授業後学習：課題、提出物の加筆修正。（2時間）						
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）。						
評価基準と評価方法	提出物（50%）：到達目標①②③および④に関する到達度の確認。 ゼミ活動への参加・貢献（50%）：到達目標④および⑤に関する到達度の確認。						
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」をさらに発展させる授業です。 授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 ディスカッションに積極的に参加してください。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B／心理学演習B						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	自らの心理学的研究のテーマを定め、それに基づいた研究計画を作成する						
授業の概要	報告とディスカッションを通じて、自らの関心のあり方を深めることを通じて、研究テーマを設定し、そのテーマの探求の方法を研究計画として具体化する。						
到達目標	(1) 自他の考えの違いに注意しながらディスカッションができる。【汎用的技能】 (2) 自分の関心のあり方を深めて研究テーマを設定できる。【汎用的技能】 (3) 自らの研究テーマにふさわしい研究計画を立案できる。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：各自の課題の確認と報告の割り当て 2. 研究の進め方を学ぶ(1)：先行研究の整理の仕方 3. 研究の進め方を学ぶ(2)：適切な研究方法の選び方 4. 研究の進め方を学ぶ(3)：収集したデータの分析の仕方 5. 研究の進め方を学ぶ(4)：考察の仕方 6. 研究計画の報告とディスカッションⅠ(1)：発表グループ1 7. 研究計画の報告とディスカッションⅠ(2)：発表グループ2 8. 研究計画の報告とディスカッションⅠ(3)：発表グループ3 9. 追加文献調査の報告とディスカッション(1)：発表グループ1 10. 追加文献調査の報告とディスカッション(2)：発表グループ2 11. 追加文献調査の報告とディスカッション(3)：発表グループ3 12. 研究計画の報告とディスカッションⅡ(1)：発表グループ1 13. 研究計画の報告とディスカッションⅡ(2)：発表グループ2 14. 研究計画の報告とディスカッションⅡ(3)：発表グループ3 15. まとめ：総括と今後の課題 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること（2時間）。 授業後は文献の追加調査を行うこと（2時間）。						
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内での発表60%、発表についてのディスカッション40% 授業内での発表：自分の関心のあり方に沿った研究テーマを設定し、テーマにふさわしい研究計画を立案できているかを評価する。到達目標（2）（3）に関する到達度の確認。 発表についてのディスカッション：発表に対する質問に的確に答えてディスカッションすることができるか、他者の発表に対して的確な問いを発してディスカッションできるかを評価する。到達目標（1）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：発表に対するディスカッションとコメントを通じて行う。						
履修上の注意	主体的に卒業研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B／心理学演習B						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究に向けて、自身の研究テーマを決めてそれに応じた研究計画について学ぶ						
授業の概要	心理学研究法A／心理学演習Aから引き続き、個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で、自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び、研究計画の概要を検討していく。						
到達目標	1. 自分自身の研究テーマに関連した心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）と研究における倫理を説明することができる。【知識・理解】 2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。【汎用的技能】 3. データを用いた実証的な思考方法に基づいて、自分自身の研究テーマに応じた大まかな研究計画を考えることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（1）テーマに関する先行研究の要約と発表 第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（2）テーマに関する先行研究の追加検討 第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（3）主となるキーワードの決定 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（1）キーワード1に関する論文収集 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（2）キーワード1に関する論文発表 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（3）キーワード2に関する論文収集 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（4）キーワード2に関する論文発表 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（5）キーワード3に関する論文収集 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（6）キーワード3に関する論文発表 第10回：研究計画に関する発表とディスカッション（1）調査方法の収集 第11回：研究計画に関する発表とディスカッション（2）調査計画の仮案作成 第12回：研究計画に関する発表とディスカッション（3）調査計画の仮案発表 第13回：研究計画に関する発表とディスカッション（4）仮案の課題点の検討 第14回：研究計画に関する発表とディスカッション（5）仮案の修正 第15回：研究計画に関する発表とディスカッション（6）研究計画書の執筆開始						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：卒論につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約、もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い、その内容について受講生と教員がディスカッションを行い、適宜補足の指導を行う。加えて、松蔭manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1,2の達成度確認 発表・提出物（50%）：到達目標1,3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B／心理学演習B						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	自らの社会心理学研究の計画作成						
授業の概要	自分の関心のあるテーマに関する社会心理学の最近の研究を、雑誌論文（「心理学研究」、「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」など）の中から選び、まとめ、発表する。 卒業論文のテーマを具体化していく。						
到達目標	① 心理学における量的および質的実証的研究法が身についている。【知識・理解】 ② データを用いた実証的な思考方法ができる。【知識・理解】 ③ 研究における倫理について、認識し理解できている。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 個人発表と討論（夏季休暇中の課題の提出） 第2回 文献（先行研究論文）収集 第3回 個人発表と討論1（研究計画案） 第4回 個人発表と討論2（研究計画案） 第5回 個人発表と討論3（研究計画案） 第6回 個人発表と討論4（研究計画案） 第7回 個人発表と討論5（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第8回 個人発表と討論6（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第9回 個人発表と討論7（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第10回 個人発表と討論8（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第11回 個人発表と討論9（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第12回 個人発表と討論10（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第13回 個人発表と討論11（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第14回 研究計画書の作成1 第15回 研究計画書の作成2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：卒業論文のテーマ候補についての情報収集を行う。具体的には、著書、論文、新聞などに目を通す（学習時間：2時間）。 事後学習：授業内で指示した課題、議論した内容について、講義ノートにまとめる（学習時間：2時間）。						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）100%						
履修上の注意	発表の際には、ゼミ人数分のレジユメを用意すること						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B／心理学演習B						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究のテーマ決定						
授業の概要	心理学研究法Aに引き続き、受講生各自が興味をもつ心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行うことで、テーマについての理解をさらに深める。 その上で、最終的に卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案することを目的とする。						
到達目標	①関心のある心の現象について、実証的研究法（量的研究及び質的研究）による研究に関する文献を読み、資料にまとめ、発表することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②他者の発表を聞いて、データを用いた実証的な思考方法に基づいたコメントをすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③研究における倫理について十分に検討された卒業研究の研究計画を作成できる。【知識・理解】 ④卒業研究のために必要な文献リストを作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	#01：演習の進め方についてのオリエンテーション #02：受講生による発表と討論－1周目の① #03：受講生による発表と討論－1周目の② #04：受講生による発表と討論－1周目の③ #05：1周目の発表についての全体講評とディスカッション #06：受講生による発表と討論－2周目の① #07：受講生による発表と討論－2周目の② #08：受講生による発表と討論－2周目の③ #09：2周目の発表についての全体講評とディスカッション #10：受講生による発表と討論－3周目の① #11：受講生による発表と討論－3周目の② #12：受講生による発表と討論－3周目の③ #13：3周目の発表についての全体講評とディスカッション #14：卒業研究計画書と文献リストの提出① #15：卒業研究計画書と文献リストの提出②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること（学習時間90分以上）。 授業後学習：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおくこと（学習時間90分以上）。						
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。						
評価基準と評価方法	発表（40%）：発表資料ならびに発表の仕方について評価する（到達目標①、③、④の到達度確認）。 討論への参加（40%）：他者の発表に対するコメントの内容について評価する（到達目標②の到達度確認）。 卒業研究計画と文献リストの提出（20%）：学期末に、卒業研究の研究計画ならびに研究に必要な文献リストを作成、提出させる（到達目標③、④の到達度確認）。						
履修上の注意	演習科目であるので、特に出席、授業への参加を重視する。 1回の授業あたり、最低1回の発言を求める。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習I						
担当教員	安原 秀和					科目ナンバ-	P73050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	基礎心理学の用語や概念についての理解を深める。						
授業の概要	大学院進学を希望する学生を対象とする。 心理学概論書を受講生が自習し、その週の担当者が参加者の前で発表する。 発表の後、教員の作成したテスト問題を解く。						
到達目標	(1) 大学院入試に必要な心の働きや心の健康に関する幅広い知識について確認できる【知識・理解】 (2) 大学院入試に必要な心理学の専門用語を見て理解できる【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 精神物理学と視知覚1 目の仕組みについて (教員が発表する) 第3回 視知覚2 色の知覚と錯視について (教員が発表する) 第4回 視知覚3 形の知覚、奥行き知覚、運動知覚 第5回 聴知覚と触知覚 第6回 学習 第7回 中間テスト 第8回 記憶1 記憶の種類 第9回 記憶2 学習と記憶の神経基盤 第10回 思考1 問題解決とピアジェの発達段階 第11回 思考2 知識と推論 第12回 言語 第13回 失語症と失行症、それらの神経基盤 第14回 動機付け1 動機付けと情動 第15回 動機付け2 動機付けの種類と葛藤 期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	各授業回で少なくとも1名が担当となり発表を行なうため、指定された教科書を読み、教科書の内容をまとめ、発表資料作成をおこなうことが必要である。発表をしない学生も予習すべきである。また、その週における授業テーマに合わせた小テストの解答のために教科書や参考書を含め様々な情報媒体に触れて、課題に取り組む必要がある。 授業前学習：教科書の予習および教科書の内容をまとめた、発表資料作成(3時間以上) 授業後学習：授業で課された小テストについての答案作成と授業内容の復習(1時間以上)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	テストの成績(50%) 発表の出来(50%)						
履修上の注意	授業外の学習で忙しくなるとお思いますので、頑張ってください。 演習中の発言も積極的にお願いします。						
教科書	『心理学 第5版補訂版』 鹿取 廣人, 杉本 敏夫, 鳥居 修晃 東京大学出版会 978-4-13-012117-0						
参考書	『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 有斐閣 ISBN: 978-4641053694 ※こちらは買う必要はありません						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P74060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学系大学院進学等に向けての専門的知識の修得						
授業の概要	臨床心理学系の大学院進学や心理臨床の専門職として活動するために必要となる、より専門性の高い臨床心理学の専門的知識の習得を目指します。 大学院入試の過去問題（臨床心理学領域専門科目）を中心に調べた内容の発表と討議を通して互いの理解を深めます。 外国語科目への対策についても課題を通して行います。						
到達目標	①臨床心理学系の大学院進学や心理臨床の専門職に必要とされる専門的知識を習得し、それらの内容について説明することができる。【知識・理解】 ②授業を通して得た知識を活かして、臨床や研究の方向性を明確化し伝えることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 心理学系大学院入試の動向、授業の進め方 第2回 臨床心理学の基礎(1) 第3回 臨床心理学の基礎(2) 第4回 臨床心理学の基礎(3) 第5回 臨床心理学の基礎(4) 第6回 臨床心理アセスメント(1) 第7回 臨床心理アセスメント(2) 第8回 臨床心理アセスメント(3) 第9回 臨床心理アセスメント(4) 第10回 臨床心理援助(1) 第11回 臨床心理援助(2) 第12回 臨床心理援助(3) 第13回 臨床心理援助(4) 第14回 臨床心理援助(5) 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、資料作成（2時間）。 授業後学習：課題（専門科目過去問題、外国語過去問題）（2時間）。						
授業方法	演習（プレゼンテーション、ディスカッション）。						
評価基準と評価方法	提出物（50%）：到達目標①および②に関する到達度の確認。 授業への参加・貢献（50%）：到達目標②に関する到達度の確認。						
履修上の注意	臨床心理学系大学院への進学や心理臨床の専門職を目指す学生を対象とします。						
教科書	なし。						
参考書	河合塾KALS(監修), 宮川純(著) 2018 公認心理師・臨床心理士大学院対策 鉄則10&キーワード100 心理学編(KS専門書) 講談社, ISBN-10: 406512381X その他については授業内で紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A／心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) ③心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～③は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 オリエンテーションと実験(木場) 2 実験の解説とレポート作成(木場) 3 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート (木場) 5 記憶の系列位置効果 (安原) 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(安原) 7 触二点閾の測定(担当者未定) 8 触二点閾の測定のレポート作成(担当者未定) 9 ストループ(久津木) 10 ストループ：データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画 (木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 12 自由実験：実施(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 15 講評(発表)(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A／心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) ③心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～③は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 オリエンテーションと実験(久津木) 2 実験の解説とレポート作成(久津木) 3 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート (木場) 5 記憶の系列位置効果 (安原) 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(安原) 7 触二点閾の測定(担当者未定) 8 触二点閾の測定のレポート作成(担当者未定) 9 ストループ(久津木) 10 ストループ：データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画 (木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 12 自由実験：実施(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 15 講評(発表)(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A／心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) ③心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～③は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 オリエンテーションと実験(担当者未定) 2 実験の解説とレポート作成(担当者未定) 3 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート (木場) 5 記憶の系列位置効果 (安原) 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(安原) 7 触二点閾の測定(担当者未定) 8 触二点閾の測定のレポート作成(担当者未定) 9 ストループ(久津木) 10 ストループ：データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画 (木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 12 自由実験：実施(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 15 講評(発表)(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A／心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験の技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) ③心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 オリエンテーションと実験(安原) 2 実験の解説とレポート作成(安原) 3 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート (木場) 5 記憶の系列位置効果 (安原) 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(安原) 7 触二点閾の測定(担当者未定) 8 触二点閾の測定のレポート作成(担当者未定) 9 ストループ(久津木) 10 ストループ：データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画 (木場・安原・(担当者未定・久津木) のいずれかのクラスに振り分け) 12 自由実験：実施(木場・安原・(担当者未定)・久津木) のいずれかのクラスに振り分け) 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木) のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・安原・(担当者未定)・久津木) のいずれかのクラスに振り分け) 15 講評(発表)(木場・安原・(担当者未定)・久津木) のいずれかのクラスに振り分け)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B／心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) 心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2 ストレスと心拍数の実験実施&レポート作成(木場) 3 身体状態の変化の心への影響の実験実施&レポート作成(木場) 4 要求水準 (安原) 5 ミューラーリヤー錯視(安原) 6 ミューラーリヤー錯視のレポート作成(安原) 7 両側性転移の実験実施&レポート作成(担当者未定) 8 係留効果の実験実施(担当者未定) 9 係留効果のレポート作成(担当者未定) 10 同調行動実験&レポート(久津木) 11 パーソナルスペース(久津木) 12 パーソナルスペース実験&レポート作成(久津木) 13 自由実験：立案・計画(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 14 自由実験：実施・分析(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 15 自由実験：レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B／心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) 心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2 ストレスと心拍数の実験実施&レポート作成(木場) 3 身体状態の変化の心への影響の実験実施&レポート作成(木場) 4 要求水準 (安原) 5 ミューラーリヤー錯視(安原) 6 ミューラーリヤー錯視のレポート作成(安原) 7 両側性転移の実験実施&レポート作成(担当者未定) 8 係留効果の実験実施(担当者未定) 9 係留効果のレポート作成(担当者未定) 10 同調行動実験&レポート(久津木) 11 パーソナルスペース(久津木) 12 パーソナルスペース実験&レポート作成(久津木) 13 自由実験：立案・計画(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 14 自由実験：実施・分析(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 15 自由実験：レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。 さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4 限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B／心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) ③心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2 ストレスと心拍数の実験実施&レポート作成(木場) 3 身体状態の変化の心への影響の実験実施&レポート作成(木場) 4 要求水準 (安原) 5 ミューラーリヤー錯視(安原) 6 ミューラーリヤー錯視のレポート作成(安原) 7 両側性転移の実験実施&レポート作成(担当者未定) 8 係留効果の実験実施(担当者未定) 9 係留効果のレポート作成(担当者未定) 10 同調行動実験&レポート(久津木) 11 パーソナルスペース(久津木) 12 パーソナルスペース実験&レポート作成(久津木) 13 自由実験：立案・計画(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 14 自由実験：実施・分析(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 15 自由実験：レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B／心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・安原・水澤					科目ナンバ-	P0203B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2 ストレスと心拍数の実験実施&レポート作成(木場) 3 身体状態の変化の心への影響の実験実施&レポート作成(木場) 4 要求水準 (安原) 5 ミューラーリヤー錯視(安原) 6 ミューラーリヤー錯視のレポート作成(安原) 7 両側性転移の実験実施&レポート作成(担当者未定) 8 係留効果の実験実施(担当者未定) 9 係留効果のレポート作成(担当者未定) 10 同調行動実験&レポート(久津木) 11 パーソナルスペース(久津木) 12 パーソナルスペース実験&レポート作成(久津木) 13 自由実験：立案・計画(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 14 自由実験：実施・分析(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け 15 自由実験：レポート作成(木場・安原・(担当者未定)・久津木)のいずれかのクラスに振り分け						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習(2時間)						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学的支援法						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P32010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学的支援法にはどのようなものがあり、どのような支援を行うべきであるのかを学ぶ						
授業の概要	心理学的支援は、心理学的な支援を要する人たちと具体的に関わる実践的な活動である。そこでは、問題の適切な理解に基づいた、適切な支援が模索されなくてはならない。心理学的支援にはどのようなものがあり、それぞれどのような性質の問題に対して適切な関わり方なのか、そもそも心理学的支援とは何を目的に何を目指して行われるべきなのかなどについて学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について概説できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。【知識・理解】</p> <p>(3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を知る。【態度・志向性】</p> <p>(4) 心理に関する支援を要する者のプライバシーへの配慮ができる。【態度・志向性】</p> <p>(5) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の適切なあり方を説明できる。【態度・志向性】</p> <p>(6) 心の健康教育について概説できる。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：心理学的支援とは</p> <p>第2回 心理療法の諸学派（1）：心理力動論</p> <p>第3回 心理療法の諸学派（2）：行動論・システム論</p> <p>第4回 支援者に求められるあり方（1）：心理学的支援における価値と倫理</p> <p>第5回 支援者に求められるあり方（2）：援助的コミュニケーションのスキル</p> <p>第6回 心理学的支援の多様な技術（1）：気づきを促進する</p> <p>第7回 心理学的支援の多様な技術（2）：新しい体験を提供する</p> <p>第8回 心理学的支援の多様な技術（3）：より適応的な行動の学習を促進する</p> <p>第9回 心理学的支援の多様な技術（4）：関係者のシステムに働きかける支援のあり方</p> <p>第10回 心理学的支援の多様なモード（1）：プレイセラピー</p> <p>第11回 心理学的支援の多様なモード（2）：グループセラピー</p> <p>第12回 コミュニティへの支援（1）：地域支援の意義</p> <p>第13回 コミュニティへの支援（2）：訪問による支援</p> <p>第14回 コミュニティへの支援（3）：心の健康教育</p> <p>第15回 授業のまとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと（2時間）。</p> <p>授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（2時間）。</p>						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業態度30%、期末試験70%</p> <p>授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容的確さ等を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）（6）に関する到達度の確認。</p> <p>期末試験：授業を通じた心理学的支援法についての理解度を評価する。到達目標（1）（2）（4）（5）（6）に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法：リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。</p>						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	『公認心理師標準テキスト 心理学的支援法』、杉原保史・福島哲夫・東斉彰編）、北大路書房、ISBN978-4-7628-3056-3						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学統計法／統計基礎論						
担当教員	野口 智草					科目ナンバ-	P22030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する						
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。						
到達目標	(1) 心理学で用いられる統計手法が理解できる。【知識・理解】 (2) 統計に関する基礎的な知識を持つことができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 統計を学ぶ目的 第2回 変数とデータ 第3回 度数分布・代表値 第4回 標準偏差 (SD) 第5回 正規分布・標本と母集団 第6回 相関 第7回 前半まとめ・中間試験・パソコン実習 第8回 母集団の推定と真の標準偏差 第9回 推定誤差 (SE) 第10回 統計的検定 第11回 t 値 第12回 帰無仮説と対立仮説・p 値 第13回 対応のない t 検定・カイ2乗検定 第14回 分散分析 第15回 後半まとめ・期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です (学習時間：1時間) 授業後学習：授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は質問できるよう、疑問点を整理しておくようにしてください。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 第7回授業のみパソコン実習						
評価基準と評価方法	宿題 30% 中間テスト 30% 期末テスト 40% 宿題：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 中間テスト・期末テスト：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 宿題および中間テストは採点し、翌週返却する。期末テストは、結果の全体的な講評をフィードバックする。						
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。 守れない学生には、即刻退席してもらいます。						
教科書	なし						
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫 (著) 北大路書房 ISBN 4-7628-2125-X						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学統計法／統計基礎論						
担当教員	野口 智草					科目ナンバ-	P22030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する						
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。						
到達目標	(1) 心理学で用いられる統計手法が理解できる。【知識・理解】 (2) 統計に関する基礎的な知識を持つことができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 統計を学ぶ目的 第2回 変数とデータ 第3回 度数分布・代表値 第4回 標準偏差 (SD) 第5回 正規分布・標本と母集団 第6回 相関 第7回 前半まとめ・中間試験・パソコン実習 第8回 母集団の推定と真の標準偏差 第9回 推定誤差 (SE) 第10回 統計的検定 第11回 t 値 第12回 帰無仮説と対立仮説・p 値 第13回 対応のない t 検定・カイ2乗検定 第14回 分散分析 第15回 後半まとめ・期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です (学習時間：1時間) 授業後学習：授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は質問できるよう、疑問点を整理しておくようにしてください。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 第7回授業のみパソコン実習						
評価基準と評価方法	宿題 30% 中間テスト 30% 期末テスト 40% 宿題：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 中間テスト・期末テスト：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 宿題および中間テストは採点し、翌週返却する。期末テストは、結果の全体的な講評をフィードバックする。						
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。 守れない学生には、即刻退席してもらいます。						
教科書	なし						
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫 (著) 北大路書房 ISBN 4-7628-2125-X						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA/心理テストA						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P2201A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評</p> <p>授業での補助をするため、TA（ティーチング アシスタント）を各回の授業に配置する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	<p>評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点（60%）：実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。</p>						
履修上の注意	<p>1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。</p>						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社 ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA/心理テストA						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P2201A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評</p> <p>授業での補助をするため、TA（ティーチング アシスタント）を各回の授業に配置する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	<p>評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点（60%）：実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。</p>						
履修上の注意	<p>1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。</p>						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社 ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA/心理テストA						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P2201A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評</p> <p>授業での補助をするため、TA（ティーチング アシスタント）を各回の授業に配置する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	<p>評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点（60%）：実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。</p>						
履修上の注意	<p>1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。</p>						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社 ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントB/心理テストB						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P2201B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	投映法の学習						
授業の概要	<p>心理的アセスメントについて、「投映法」といわれる心理検査法を中心に学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。 それらの学習を通じて、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>①心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【態度・志向性】 ②心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【汎用的技能】 ④授業で実施した投映法心理検査について、適切な記録の作成ならびに報告を行うことができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>#01：オリエンテーションー心理的アセスメントにおける投映法 #02：描画法①ーバウム・テスト #03：描画法②ー人物画テスト #04：描画法③ーS-HTP #05：描画法④ー風景構成法 #06：SCT①ー理論と施行法 #07：SCT②ー結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①ー理論と施行法 #09：PFスタディ②ー結果の整理(1) スコアリング #10：PFスタディ③ー結果の整理(2) スコアリング/各種指標の算出 #11：PFスタディ④ー結果の整理(3) 各種指標の算出 #12：PFスタディ⑤ー結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ、レポート提出</p> <p>※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「投映法」、#02は「バウム・テスト」など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めること。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと（学習時間90分）。</p>						
授業方法	講義（演習、実習の内容を含む）。						
評価基準と評価方法	<p>毎回の小レポート（50%）：その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想の提出を求める（到達目標①～③のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。 検査所見レポート（50%）：実施した検査を用いての自己分析所見レポートの提出を求める（到達目標④の到達度確認）。レポートの作成に際しては、採点基準（ルーブリック）を配布する。</p>						
履修上の注意	<p>テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。 毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。</p>						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントB/心理テストB						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P2201B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	投射法の学習						
授業の概要	<p>心理的アセスメントについて、「投射法」といわれる心理検査法を中心に学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。 それらの学習を通じて、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>①心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【態度・志向性】 ②心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【汎用的技能】 ④授業で実施した投射法心理検査について、適切な記録の作成ならびに報告を行うことができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>#01：オリエンテーションー心理的アセスメントにおける投射法 #02：描画法①ーバウム・テスト #03：描画法②ー人物画テスト #04：描画法③ーS-HTP #05：描画法④ー風景構成法 #06：SCT①ー理論と施行法 #07：SCT②ー結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①ー理論と施行法 #09：PFスタディ②ー結果の整理(1) スコアリング #10：PFスタディ③ー結果の整理(2) スコアリング/各種指標の算出 #11：PFスタディ④ー結果の整理(3) 各種指標の算出 #12：PFスタディ⑤ー結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ、レポート提出</p> <p>※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「投射法」、#02は「バウム・テスト」など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めること。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと（学習時間90分）。</p>						
授業方法	講義（演習、実習の内容を含む）。						
評価基準と評価方法	<p>毎回の小レポート（50%）：その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想の提出を求める（到達目標①～③のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。 検査所見レポート（50%）：実施した検査を用いての自己分析所見レポートの提出を求める（到達目標④の到達度確認）。レポートの作成に際しては、採点基準（ルーブリック）を配布する。</p>						
履修上の注意	<p>テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。 毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。</p>						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理の仕事						
担当教員	単位認定者：黒崎 優美					科目ナンバ-	P72070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	職業としての心理学						
授業の概要	心理学の専門性を活かして様々な現場で活躍する職業人の講話を聞き、職業領域や適性について学ぶ。						
到達目標	<p>①社会の中の様々な領域で心理学の知識が活かされていることについて理解し、説明することができる。【知識・理解】</p> <p>②①の理解に基づき、自らの学びを社会に活かすことを考え、説明することができる。【態度・志向性】</p> <p>③自分自身の職業適性について考え、将来像を描き、説明することができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>※第2回から第13回は、ゲストスピーカーを招へいする。</p> <p>第1回 イントロダクション/大学院でプロフェッショナルを目指すということ 第2回 医療事務で心理の知識をどういかせるか 第3回 大学病院での心理の仕事 第4回 療育支援での心理の仕事 第5回 アニマルセラピストという仕事 第6回 日本語教育の仕事に心理の知識をどういかせるか 第7回 小学校でのスクールソーシャルワーカーの仕事 第8回 スクールカウンセラーの仕事 第9回 児童指導員の仕事 第10回 福祉施設における心理の仕事 第11回 児童の施設における心理の仕事 第12回 金融機関における心理の仕事 第13回 緩和ケアにおける心理の仕事 第14回 県警での被害者支援カウンセラーの仕事 第15回 総括</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：各回のテーマについて調べ予備知識を得る。(2時間)</p> <p>授業後学習：各回のテーマに関連する文献購読。(2時間)</p>						
授業方法	講義(オムニバス形式)。						
評価基準と評価方法	<p>平常点(50%)、毎回の小レポート(50%)により評価する。</p> <p>平常点：受講時の態度、および、授業への参加の程度を総合的に評価する。</p> <p>小レポート：毎回、授業の最後に小レポートを実施する。総合得点を小レポートの評価とする。</p>						
履修上の注意	<p>講師の先生方は、いずれも学外の専門家の方々である。私語、居眠り、遅刻、早退といった失礼な態度をとることは厳に慎まなければならない。受講態度に問題があると判断した学生は、受講を不可とする場合もある。</p> <p>なお、講師の都合その他により、授業の予定に変更が生じる場合があることに注意すること。</p> <p>出欠状況の把握、欠席、成績、補講日程についてのメールでの問い合わせは受け付けない。</p> <p>※休講・補講については、ポータルを確認すること。</p> <p>* 出欠・成績について質問や連絡がある時は、直接授業前後に担当教員に申し出ること。</p>						
教科書	指定しない。						
参考書	指定しない。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法A/心理療法I						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P3305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ - A. 精神分析と精神分析的な心理療法						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。「心理療法A」では、精神分析と精神分析的な心理療法を学ぶ。精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論、かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また、精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を、精神分析的な心理療法という。この授業では、精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに、精神分析的な心理療法の実践について学習する。						
到達目標	①Freudの精神分析の考え方や概念について、4つの基本的な観点から説明することができる。【知識・理解】 ②Freud以降の精神分析の発展について、主な学派とそれらの特徴を解説することができる。【知識・理解】 ③精神分析、精神分析的な心理療法の技法について、専門用語を用いて説明することができる。【知識・理解】 ④心に関する現象を、精神分析的な視点から説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	#01：オリエンテーション-精神分析・精神分析的な心理療法とは？ #02：精神分析の基本的観点①：局所論/構造論 #03：精神分析の基本的観点②：力動論 #04：精神分析の基本的観点③：経済論 #05：精神分析の基本的観点④：発達論 #06：精神分析の技法①：催眠から自由連想へ #07：精神分析の技法②：転移、逆転移、中立性 #08：精神分析の発展①：アドラーとユング #09：精神分析の発展②：精神分析の学派(1)-自我心理学・対象関係論 #10：精神分析の発展③：精神分析の学派(2)-自己心理学・対人関係論 #11：精神分析の発展④：対象の拡大 #12：精神分析と精神分析的な心理療法①：精神分析の基礎にあるもの #13：精神分析と精神分析的な心理療法②：精神分析の新しい流れ #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「精神分析」「精神分析的な心理療法」、#02は「局所論」「構造論」、など。：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。						
授業方法	講義形式。毎回の授業において、学んだ内容について考えるワークを、小レポートの形式で作成・提出させる。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）：毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）の提出を求める（到達目標①～④のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う（到達目標①～④の到達度確認）。#15に解答例を配布する。						
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。						
教科書	なし。						
参考書	マイケル・カーン 2017 ベイシック・フロイトー21世紀に活かす精神分析の思考 岩崎学術出版社 ISBN：978-4753311262 土居健郎 1988 精神分析 講談社学術文庫 ISBN：978-4061588516 小松貴弘・渡辺亘・中村博文 2019 時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門 創元社 ISBN：978-4422117218 その他、授業内で適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法B／心理療法II						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P3305B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ。 -B／II. 子どもの心理療法						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じた様々な心理療法について学ぶ。 「心理療法B／II」では乳幼児期から児童期までの間に子どもが呈する様々な心理症状についての知識を得る。そして子どもにとって身近な他者である家族の心理について同時に考えることで、子どもの援助を多面的な視点から学ぶ。						
到達目標	1. 乳幼児期から児童期に至る子どもの呈する心理症状や障害（がい）についての基礎的な知識を得て、人に説明ができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 2. 子どもやその家族の心的援助について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。【態度・志向性】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション ～子どもの臨床とは～ 第2回：子どもの心や症状について考えるための基本的な理解 第3回：プレイセラピーとは 第4回：ケースから学ぶ～実際の子どものセラピーの様子について文献記録を読み解く～ 第5回：乳児期に見られる症状とその援助①反応の弱い子、過敏な子、育てやすい子 第6回：乳児期に見られる症状とその援助②発達の早い子、ゆっくりな子 第7回：幼児期に見られる症状とその援助①夜驚症、チック障害 第8回：幼児期に見られる症状とその援助②緘黙症、強迫性障害 第9回：体験から学ぶ～①乳幼児期のセラピーの技法を体験してみよう～ 第10回：アタッチメント理論を基にした子どもの理解と親への援助 第11回：親子の関係性そのものの理解と援助の技法を学ぶ～セラプレイとは～ 第12回：体験から学ぶ～②セラプレイ的遊びを体験してみよう～ 第13回：児童期に見られる症状とその援助①不登校 第14回：児童期に見られる症状とその援助②発達障害 第15回：総まとめと試験 ～仮想事例の検討～						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、子どもや家族に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：2時間）						
授業方法	基本的に講義を中心とした比較的専門性の高い内容とする。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30％）：到達目標1の達成度確認 中間レポート（30％）：到達目標1, 2の達成度確認 期末試験（40％）：到達目標1, 2の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 レポートや試験に関しても、重要な内容は適宜紹介や振り返りを行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	藤本浩一・金網知征・榊原久直（2019）読んでわかる児童心理学。サイエンス社。ISBN：978-4781914541 木部則雄（2006）こどもの精神分析 クライン派・対象関係論からのアプローチ。岩崎学術出版社 ISBN：978-4753306091						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法C/心理療法III						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P3305C
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶⅢ. 家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法C/心理療法Ⅲ」では、家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの主要な理論と用語について説明することができる。【知識・理解】 2. 身近な心の問題について、家族療法やブリーフセラピーの概念や用語を用いて解説し、解決策について提案することができる。【知識・理解】【態度・志向性】						
授業計画	第1回：心理療法における「問題」の捉え方 第2回：さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第3回：家族療法の理論と実際（1）家族療法とシステム論 第4回：家族療法の理論と実際（2）家族療法の実際 第5回：ブリーフセラピー概論 第6回：ミルトン・エリクソンの心理療法 第7回：MRIモデルの理論と技法（1）変化の理論 第8回：MRIモデルの理論と技法（2）コミュニケーション理論 第9回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（1）基本的な考え方と特徴 第10回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（2）解決構築とは？ 第11回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（3）質問技法の実際 第12回：ナラティブ・セラピー（1）社会構成主義の理論 第13回：ナラティブ・セラピー（2）会話の実際 第14回：ナラティブ・セラピー（3）事例を中心に 第15回：試験と総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容や用語について家族療法やブリーフセラピーの関連書にて予習（学習時間：90分以上） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分以上）						
授業方法	講義形式であるが、授業中に与えられたテーマに関して、ペアもしくはグループでディスカッションを行う。各回の授業終了時にリアクションペーパーを記入する。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（リアクションペーパー）：20%、中間テスト40%、期末テスト40% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容の・記述の的確さなどを評価する。到達目標1および2に関する到達度の確認。 中間テストと期末テスト：授業で扱った心理療法の理論と技法についての理解度について評価する。到達目標1および2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、次の回に限って再配布する。 リアクションペーパーについては、クラス内において開示されても良い内容について記述すること。						
教科書	プリント資料を配布する。						
参考書	坂本真佐哉著「今日から始まるナラティブ・セラピー：希望をひらく対人援助」日本評論社 遊佐安一郎著「家族療法入門—システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東 豊著「心理療法テクニックのススメ」金子書房						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法D/心理療法IV						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P3305D
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ —D/IV. 対人関係精神分析						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。「心理療法D/IV」では、対人関係精神分析について学ぶ。対人関係精神分析は、サリヴァンを源流とする考え方であり、フロイトの精神分析がより生物学的要因を重視するものであったのに対して、社会的要因を重視したことに特徴がある。この立場の基本的な考え方と技法を学ぶとともに、心理療法の基礎の基礎から学ぶ。						
到達目標	(1) 心理療法がどのような営みであり、どのような過程で学ばれるものであるかについて説明できる。【汎用的技能】 (2) 対人関係精神分析の基本的な考え方と心理療法の進め方を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション(1): 心理療法を学ぶ意味と心の捉え方 第2回 オリエンテーション(2): 心の健康・悩みと心の成長 第3回 心理療法の本質(1): 心理療法とは何か 第4回 心理療法の本質(2): 心理療法のまなざし 第5回 心理療法の本質(3): 心理療法家の心構え 第6回 心理療法の実際(1): 事例の提示とクライアントの視点 第7回 心理療法の実際(2): セラピストの視点と面接関係で起きること 第8回 対人関係精神分析を学ぶ(1): サリヴァンのパーソナリティ論 第9回 対人関係精神分析を学ぶ(2): サリヴァンの発達論 第10回 対人関係精神分析を学ぶ(3): サリヴァンの心理療法論 第11回 対人関係精神分析を学ぶ(4): 心理療法の初期過程 第12回 対人関係精神分析を学ぶ(5): 心理療法の中期過程 第13回 対人関係精神分析を学ぶ(6): 心理療法の終結過程 第14回 対人関係精神分析を学ぶ(7): スターンの心理療法論 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと(2時間)。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること(2時間)。						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度: 授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容的確さ等を評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 期末試験: 授業を通じた心理療法の基礎、対人関係精神分析についての理解度を評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法: リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	『時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門』、小松貴弘・渡辺亘・中村博文編著、創元社、2019年、ISBN978-4-422-11721-8						
参考書	鏑幹八郎(監修)「精神分析的な心理療法の手引き」誠信書房 1998 その他、授業中に適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーの心理学						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P43050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ						
授業の概要	男女に対する固定観念が、ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。						
到達目標	人の行動や心の状態を、適切な方法で把握し、分析することができる。 個人の心の中にジェンダーが浸透していることに気づくことができる。 ジェンダー社会を維持するしくみを理解することができる。 自分自身に向き合い、深い自己理解をし、ジェンダー・ステレオタイプから自由に生きるための方法を考えることができる。						
授業計画	第1回 ジェンダーへの心理学的アプローチ 第2回 セックスとジェンダー 第3回 ジェンダー・ステレオタイプの形成と維持 第4回 ジェンダー・スキーマ 第5回 集団とジェンダー・ステレオタイプ 第6回 性別分業社会とジェンダー・ステレオタイプ 第7回 ジェンダーの社会化（1）子ども自身の認知発達 第8回 ジェンダーの社会化（2）子どもを取り巻く環境 第9回 ジェンダーによる心身への影響（1） 第10回 ジェンダーによる心身への影響（2）-精神疾患の性差、役割行動- 第11回 心理学の学問におけるジェンダー・ステレオタイプ 第12回 ジェンダーに基づく偏見と差別 第13回 ジェンダー・ステレオタイプの軽減 第14回 前期授業の質疑応答・補足・調査結果のフィードバック 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が1分間ずつで説明し合う。						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）30％，定期試験70％						
履修上の注意	座席指定						
教科書	「ジェンダーの心理学」 青野篤子・森永康子・土肥伊都子（著）（ミネルヴァ書房） ISBN:9784623041534						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	人体の構造と機能及び疾病						
担当教員	木場 律志・新田 麻以子					科目ナンバ-	P73030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	公認心理師に必要とされる医学・医療に関する知識として、人体の構造や機能、及び心理的支援が必要な主な疾病について学ぶ。						
授業の概要	公認心理師は、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理に関する支援を要する者やその関係者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う。保健医療分野で働く公認心理師として、心理に関する支援を要する者やその関係者の相談や援助に取り組んでいくためには、医療スタッフと緊密な連携をとる事が必要である。また、医療スタッフと情報を共有するためには医学的な知識も必要となる。 本講義では、第5回まで人体の構造と機能について学ぶ。第6回からはがんや依存症、難病等の心理的支援が必要となりうる主な疾病について学び、それらの心理的支援について考える。						
到達目標	1. 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について説明することができる。【知識・理解】 2. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、医学と医療 (木場) 第2回 人体の構造と機能① 細胞、組織、消化器系、呼吸器系 (木場) 第3回 人体の構造と機能② 血液、循環器系、泌尿器系 (木場) 第4回 人体の構造と機能③ 運動器系、感覚器系、神経系、内分泌系 (木場) 第5回 人体の構造と機能④ まとめと試験 (木場) 第6回 心理的支援が必要な主な疾病① 腫瘍臨床とがんサバイバーシップ・遺伝性疾患・先天性疾患・遺伝カウンセリング (新田) 第7回 心理的支援が必要な主な疾病② 難病 (新田) 第8回 心理的支援が必要な主な疾病③ 後天性免疫不全症候群・臓器移植 (新田) 第9回 心理的支援が必要な主な疾病④ 認知症・脳血管障害 (新田) 第10回 心理的支援が必要な主な疾病⑤ 糖尿病 (新田) 第11回 心理的支援が必要な主な疾病⑥ 依存症ーアルコール・薬物 (新田) 第12回 心理的支援が必要な主な疾病⑦ 循環器疾患 (新田) 第13回 心理的支援が必要な主な疾病⑧ 緩和ケア、エンドオブライフケア (新田) 第14回 心理的支援が必要な主な疾病⑨ グリーフケア (新田) 第15回 心理的支援が必要な主な疾病⑩ まとめと試験 (新田)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：医学・医療に関する専門書やメディアなどで紹介されている情報を通じて事前に知識を得ておく。(学習時間60分) 授業後学習：時間の都合上、医学・医療領域に関する広範な知識をすべて扱うことは出来ないため、講義で扱われない内容については各自で書籍などを通じて理解を深める。(学習時間120分)						
授業方法	資料を提示しながら講義を行う。授業で扱うテーマについてグループで話し合い、発表することもある。						
評価基準と評価方法	小レポート25%：各回提出のリアクションペーパーにより受講態度および理解度を評価する。(到達目標1.および2.に関する到達度の確認) 試験75%：第5回と第15回に実施する試験で評価する。(到達目標1.および2.に関する到達度の確認)						
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントはmanaba上で入手して、次の授業に臨むこと。						
教科書	特になし。参考資料などについてはその都度、講義中に紹介する。						
参考書	『人体の構造と機能及び疾病』、齊藤清二、遠見書房、ISBN 9784866160719						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	精神疾患とその治療／心の医学						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P32100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学に関連が深い医学領域である、精神疾患・心身症・向精神薬について学ぶ。						
授業の概要	精神医学・心身医学・精神薬理学といった分野は、心理学との関連が極めて深く、心理学の学びが大いに活用される分野である。また、これらに関する知識は保健・医療分野のみならず、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働といった心理学に関する様々な分野での心理臨床において必要とされる。にもかかわらず、心理職の多くがこうした知識を十分に身に着けているとは言い難く、また患者本人やその家族、その他の関係者の理解も極めて乏しいと言える。 本講義では、精神医学・心身医学を概観した上で、代表的な精神疾患・心身症について学習する。また、向精神薬について学ぶ中で、各疾患への対応についても理解を深める。						
到達目標	1. 精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）について説明できる。【知識・理解】 2. 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について説明できる。【知識・理解】 3. 医療機関との連携について説明できる。【知識・理解】 4. 心身症総論（代表的な心身症についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）について説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、心の問題と心理学・医学、精神医学総論 第2回 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病的障害群 第3回 抑うつ障害群、双極性障害および関連障害群 第4回 不安症群/不安障害群 第5回 強迫性障害および関連障害群、心的外傷およびストレス因関連障害群 第6回 神経発達症群/神経発達障害群 第7回 心身医学総論 第8回 消化器系の心身症 第9回 慢性疼痛症候群、神経・筋肉系の心身症 第10回 循環器・呼吸器・アレルギー系の心身症 第11回 内分泌・代謝系の心身症 第12回 心身症の治療 第13回 向精神薬① 抗精神病薬・抗うつ薬 第14回 向精神薬② 抗不安薬・催眠鎮静剤 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：医療領域に関連する心理学の専門書を読み、精神疾患や心身症に関する知識を事前に得ておく。（学習時間：60分） 授業後学習：時間の都合上、すべての精神疾患および心身症について学習することはできないので、講義で扱わない内容については各自で書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：120分）						
授業方法	資料を提示しながら講義を進める。（一部の精神疾患および心身症については、アセスメント法や治療法を体験する演習も行う）						
評価基準と評価方法	・小レポート40%：各回提出のリアクションペーパーにより受講態度および理解度を評価する（到達目標1.～4.に関する到達度の確認） ・試験 60%（到達目標1.～4.に関する到達度の確認）						
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、manaba上で入手して、次の授業に臨むこと。						
教科書	なし						
参考書	・『公認心理士必携 精神医療・臨床心理の知識と技法』、下山晴彦・中嶋義文、医学書院、ISBN 9784260027991 ・『最新医学 別冊 新しい診断と治療のABC78 精神8 心身症』、久保千春、最新医学社、						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P33080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機						
授業の概要	本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。						
到達目標	①成人期・老年期の心理学的特徴について、説明できる。【知識・理解】 ②成人期・老年期に生じやすい心理学的問題について、説明できる。【知識・理解】 ③自らのライフサイクルにおける成人期・老年期の意味について推測・考察し、論述できる。【知識・理解】						
授業計画	#01：オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 #02：成人期の心理学的特徴と発達課題 #03：結婚・妊娠・出産 #04：子育て #05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス #06：職場における問題（2）：うつ病と自殺 #07：老親の介護における心理的問題 #08：中年期危機 #09：老年期の心理学的特徴と発達課題 #10：認知症 #11：老年期うつと妄想 #12：老年期における喪失体験 #13：老年期における死の問題 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「生涯発達論」、#02は「成人期」「発達課題」、など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。						
授業方法	講義形式。毎回の授業において、学んだ内容について考えるワークを、小レポートの形式で作成・提出させる。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）：毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）の提出を求める（到達目標①～③のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う（到達目標①～④の到達度確認）。#15に解答例を配布する。						
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P43090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	生と死を学ぶ。						
授業の概要	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、死別後の悲嘆、外傷的死別（災害、犯罪・事故、自殺など）、グリーフカウンセリング、末期患者と家族の心理、病名告知、ホスピス緩和ケアなどを取り上げ、さまざまな観点から死についての理解を深める。また、臓器移植など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学ぶ。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。						
到達目標	(1) 生と死をめぐる問題について心理学的に考察し、説明することができる。【知識・理解】 (2) 誰もが避けることのできない死について心理学的に学ぶことで、実際に身近に起こったときのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：ストレス源としての死別体験 第2回：喪失と悲嘆に関する諸理論 第3回：通常の悲嘆反応と複雑な悲嘆反応 第4回：悲嘆の複雑化と関連要因 第5回：さまざまな喪失(1)自然災害～子どもへの影響 第6回：さまざまな喪失(2)大規模事故・犯罪～二次被害 第7回：さまざまな喪失(3)自殺・ペットロス～公認されない悲嘆 第8回：ケアを行う際の基本的姿勢 第9回：支援の方法～グリーフカウンセリング・複雑性悲嘆治療（ロール・プレイを含む） 第10回：病名の告知 第11回：ホスピス緩和ケアとQOL 第12回：末期患者の心理と家族のケア 第13回：生命倫理～臓器移植 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書や参考書を事前に熟読する。また、授業では小グループでの発表を予定しているため、各自が関心を持ったテーマについて調べ、発表資料を用意する（学習時間：2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間：2時間）。						
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、ロールプレイや小グループによる発表およびディスカッションを行う授業回もある。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	『死を学ぶ』 柏木哲夫（著）有斐閣 ISBN4-641-07582-4						
参考書	『「悲しみ」の後遺症をケアする—グリーフケア・トラウマケア入門』 小西聖子・白井明美（著）角川学芸出版 ISBN978-4-04-651613-8 『悲嘆学入門—死別の悲しみを学ぶ』 坂口幸弘（著）昭和堂 ISBN978-4-8122-1015-4						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	P32070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期に関連する課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。ワークや発表またはレポートを通じて、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。						
到達目標	①青年期に関連の深い諸課題について、臨床心理学的な観点から考え、説明することができる。【知識・理解】 ②授業を通じて得た知識や理解を自己理解や日常生活上の諸課題の理解に応用できる。また、それを言語化し、他者に伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入 ~授業の進め方、生涯発達と青年期~ 第2回 青年期の親子関係 第3回 青年期の恋愛・友人関係(1) 第4回 青年期の恋愛・友人関係(2) 第5回 青年期の就活・就労(1) 第6回 青年期の就活・就労(2) 第7回 ニート・ひきこもりの心理(1) 第8回 ニート・ひきこもりの心理(2) 第9回 青年期の犯罪(1) 第10回 青年期の犯罪(2) 第11回 青年期の精神疾患(1) 第12回 青年期の精神疾患(2) 第13回 個人と集団の精神療法 第14回 まとめと試験 第15回 課題発表、試験解説						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献購読、ワークまとめ。(2時間) 授業後学習：文献購読、課題。(2時間)						
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	授業レポート(40%)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 試験 ※持ち込み可(30%)：到達目標①および②に関する到達度の確認。 課題1(授業ワークのまとめ、レポート、発表のいずれか)(30%)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 ※課題1のテーマ(レポート、発表)：青年期の心理に関連する素材、または参考文献の内容について、授業内容と関連づけ説明する。 課題2(素材カード)：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 ※課題1は必ず行ってください。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成と研究発表						
授業の概要	「心理学研究法B／心理学演習B」において作成した研究計画に基づき、調査研究等を行います。卒業研究の内容を発表し、ディスカッションを通して理解を深め、卒業論文を完成させます。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（これまでのふりかえり、授業の進め方） 第2回 研究方法（質問紙等）の検討(1) 第3回 研究方法（質問紙等）の検討(2) 第4回 研究方法（質問紙等）の検討(3) 第5回 研究方法（質問紙等）の検討(4) 第6回 研究方法（質問紙等）の検討(5) 第7回 研究方法（調査スケジュール等）の検討(1) 第8回 研究方法（調査スケジュール等）の検討(2) 第9回 研究方法（調査スケジュール等）の検討(2) 第10回 分析方法の検討(1) 第11回 分析方法の検討(2) 第13回 分析方法の検討(3) 第14回 中間発表(1) ※3年ゼミ、大学院ゼミとの合同授業 第15回 中間発表(2) ※3年ゼミ、大学院ゼミとの合同授業 第16回 オリエンテーション（これまでのふりかえり、授業の進め方） 第17回 調査結果のまとめ(1) 第18回 調査結果のまとめ(2) 第19回 調査結果のまとめ(3) 第20回 調査結果のまとめ(4) 第21回 調査結果のまとめ(5) 第22回 研究の成果と課題の検討(1) 第23回 研究の成果と課題の検討(2) 第24回 研究の成果と課題の検討(3) 第25回 研究の成果と課題の検討(4) 第26回 卒業研究発表(1) 第27回 卒業研究発表(2) 第28回 卒業研究発表(3) 第29回 卒業研究発表(4) ※3年ゼミ、大学院ゼミとの合同授業 第30回 卒業研究発表(5) ※3年ゼミ、大学院ゼミとの合同授業						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、卒業論文作成、発表資料作成。（2時間） 授業後学習：提出物の加筆修正。（2時間）						
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）。						
評価基準と評価方法	・卒業論文 50% 到達目標（1）（2）に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度） 50% 到達目標（3）（4）に関する達成度の確認						
履修上の注意	「心理学研究法B／心理学演習B」をさらに発展させる授業です。 授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 ディスカッションに積極的に参加してください。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	各自が選んだテーマに沿って研究を行い、卒業論文の作成に取り組む。報告とディスカッションを行いながら、研究を構想し、実施し、考察し、論理的で人に伝わる文章としてまとめあげることを目指す。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画 (1) テーマ設定① 第3回 研究計画 (2) テーマ設定② 第4回 研究計画 (3) 先行研究の調査① 第5回 研究計画 (4) 先行研究の調査② 第6回 研究計画 (5) 研究方法の検討① 第7回 研究計画 (6) 研究方法の検討② 第8回 研究計画 (7) データ収集の計画① 第9回 研究計画 (8) データ収集の計画② 第10回 実施準備 (1) データ収集の準備① 第11回 実施準備 (2) データ収集の準備② 第12回 実施準備 (3) 倫理的問題の検討 第13回 調査の実施 (1) データ収集の実施① 第14回 調査の実施 (2) データ収集の実施② 第15回 調査の実施 (3) データ収集の実施③ 第16回 中間発表会 第17回 結果の整理 (1) データの整理と分析① 第18回 結果の整理 (2) データの整理と分析② 第19回 結果の整理 (3) データの整理と分析③ 第20回 論文執筆 (1) 問題と目的① 第21回 論文執筆 (2) 問題と目的② 第22回 論文執筆 (3) 研究仮説と方法 第23回 論文執筆 (4) 結果の記述① 第24回 論文執筆 (5) 結果の記述② 第25回 論文執筆 (6) 考察① 第26回 論文執筆 (7) 考察② 第27回 論文執筆 (8) 残された課題 第28回 発表資料の作成 (1) 第29回 発表資料の作成 (2) 第30回 卒業研究発表会						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：研究テーマに関連する文献、先行研究論文等の調査と精読 (2時間) 授業後学習：授業でのディスカッションを踏まえた再検討及び修正作業 (2時間)						
授業方法	演習形式で行う。各自の発表に基づくディスカッションを通じて、研究テーマ、研究の進め方、研究方法、考察のあり方等について理解を深めていく。						
評価基準と評価方法	・卒業論文 50% 到達目標 (1) (2) に関する達成度の確認 ・授業態度 (ゼミ活動への参加・貢献度) 50% 到達目標 (3) (4) に関する達成度の確認						
履修上の注意	卒業研究に主体的に取り組む、さまざまな人々との対話を心がけること。						
教科書	特になし。						

参考書	適宜必要に応じて紹介する。
-----	---------------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	心理学の研究を論文の形にまとめる。						
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどについて各自が選んだテーマについての考察を深め、卒業論文としてまとめることを目指す。進行状況に従い、随時報告、発表させ個別指導を行っていく。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：研究計画とディスカッション (1) テーマの選び方 第2回：研究計画とディスカッション (2) 先行研究の読み方 第3回：研究計画とディスカッション (3) 問題の立て方 第4回：研究計画とディスカッション (4) 研究プロトコルの立て方 第5回：研究計画とディスカッション (5) 対象の選び方 第6回：研究計画とディスカッション (6) 結果の分析の仕方 第7回：調査／研究の実際 (1) 研究協力者の募集とインフォームドコンセント 第8回：調査／研究の実際 (2) 倫理的検討事項 第9回：調査／研究の実際 (3) 調査協力依頼の仕方 第10回：調査／研究の実際 (4) データの管理とまとめ方 第11回：調査／研究の実際 (5) 量的データの収集方法 第12回：調査／研究の実際 (6) 質的データの収集方法 第13回：データ解析とプレゼンテーション (1) データ整理の仕方 第14回：データ解析とプレゼンテーション (2) 記述統計 第15回：データ解析とプレゼンテーション (3) 推測統計 第16回：データ解析とプレゼンテーション (4) 結果の解釈 第17回：データ解析とプレゼンテーション (5) 先行研究との比較 第18回：データ解析とプレゼンテーション (6) 考察の仕方 第19回：論文指導 (1) 背景と目的の記述 第20回：論文指導 (2) 仮説の記述 第21回：論文指導 (3) 方法の記述 第22回：論文指導 (4) 結果の記述 第23回：論文指導 (5) 図表の書き方 第24回：論文指導 (6) 考察の記述 第25回：論文指導 (7) 先行研究との比較の記述 第26回：論文指導 (8) 社会的意義について 第27回：論文指導 (9) 今後の課題について 第28回：論文指導 (10) 振り返り 第29回：卒業研究発表会 (ゼミ内) 第30回：卒業研究発表会 (全体)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：選んだテーマに関する先行文献を検索し、関連する研究について論文にまとめるために情報収集を行う (90分) 授業後学習：ディスカッションした内容に基づき研究計画を改定し、論文として記述していく (90分)						
授業方法	自分の研究に関連する先行研究について調べて発表 (プレゼンテーション) を行い、ディスカッションする。						
評価基準と評価方法	・卒業論文 50% 到達目標 (1) (2) に関する達成度の確認 ・授業態度 (ゼミ活動への参加・貢献度) 50% 到達目標 (3) (4) に関する達成度の確認						
履修上の注意	自発的に研究をすすめ、多くの討論を重ねながら卒業論文を完成させること						
教科書	特になし						

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を作成する。						
授業の概要	カウンセリングや心理療法などの対人援助、人と人との関係性（親子関係やきょうだい関係、友人関係など）やコミュニケーション、病院臨床（心身症や精神疾患など）や学校臨床（不登校、発達障害など）などの領域の中から各自が選んだテーマについての考察を深め、卒業論文としてまとめることを目指す。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 研究計画の検討① テーマ（問題）の確認 第2回 研究計画の検討② 先行研究の確認 第3回 研究計画の検討③ 目的の検討 第4回 研究計画の検討④ 仮説の立案 第5回 研究計画の検討⑤ 仮説の修正 第6回 研究計画の検討⑥ 仮説の決定 第7回 研究計画の検討⑦ 方法・手続きの立案 第8回 研究計画の検討⑧ 方法・手続きの修正 第9回 研究計画の検討⑨ 方法・手続きの決定 第10回 研究の実施 第11回 研究データの整理 第12回 研究データの集計 第13回 研究データの分析① 記述統計 第14回 研究データの分析② 推測統計 第15回 研究データの分析③ 結果のまとめ 第16回 研究データの分析④ 結果の解釈 第17回 卒業論文の作成① 問題 第18回 卒業論文の作成② 目的 第19回 卒業論文の作成③ 方法・手続き 第20回 卒業論文の作成④ 図表 第21回 卒業論文の作成⑤ 結果 第22回 卒業論文の作成⑥ 考察 第23回 卒業論文の作成⑦ 文献 第24回 卒業論文の作成⑧ 要約 第25回 卒業論文の校正① 問題、目的、方法・手続き、図表、結果の修正 第26回 卒業論文の校正② 考察、文献、要約の修正 第27回 卒業論文の最終校正 第28回 卒業論文事前発表会の準備 第29回 卒業論文事前発表会 第30回 卒業論文発表会の準備						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：選んだテーマに関する文献を検索し、関連する研究について論文にまとめるために情報収集を行う。（学習時間：90分） 授業後学習：発表やディスカッションの内容の要点を確認・整理し、必要な修正を加える。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式と個別指導を併用する。研究テーマに関する文献について調べて発表し、ディスカッションを行う。適宜、必要事項について説明を行う。						
評価基準と評価方法	・卒業論文 50% 到達目標（1）（2）に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度） 50% 到達目標（3）（4）に関する達成度の確認						
履修上の注意	質問や意見を出しながら自発的に研究を進め、多くのディスカッションを重ねながら卒業論文を完成させることを求める。						
教科書	なし						

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	前年度の心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての研究を行い、その成果を卒業論文として提出する。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】						
授業計画	#01: 卒論ゼミの進め方についてのオリエンテーション #02: 研究テーマの最終検討① #03: 研究テーマの最終検討② #04: データ収集法の検討① #05: データ収集法の検討② #06: データ収集法の検討③ #07: データの収集① #08: データの収集② #09: データの収集③ #10: データの収集④ #11: データの収集⑤ #12: データのまとめ① #13: データのまとめ② #14: データのまとめ③ #15: データの分析① #16: データの分析② #17: データの分析③ #18: 中間報告 #19: 論文執筆① #20: 論文執筆② #21: 論文執筆③ #22: 論文執筆④ #23: 論文執筆⑤ #24: 卒業論文初稿の提出 #25: 論文修正① #26: 論文修正② #27: 論文修正③ #28: 卒業論文の提出 #29: 卒論発表会 (ゼミ内) #30: 卒論発表会 (学科)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	各自の研究テーマに沿って、研究を進めること。						
授業方法	演習形式。個別指導が中心となる。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。						
評価基準と評価方法	・卒業論文 50% 到達目標 (1) (2) に関する達成度の確認 ・授業態度 (ゼミ活動への参加・貢献度) 50% 到達目標 (3) (4) に関する達成度の確認						
履修上の注意	各自が主体的に研究および論文執筆に取り組むことを求める。 特に、質問紙調査や実験など統計処理を必要とする研究を行う場合には、あらかじめ必要な統計処理の内容について十分な学習をしておくこと。						
教科書	なし。						

参考書	指導の過程で、適時紹介する。
-----	----------------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人援助の法律と制度（関係行政論）						
担当教員	後藤 弘州					科目ナンバ-	P73020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	公認心理師として働く上で重要となる法制度の理解						
授業の概要	社会においていかなる仕事をする上でも法律に関する知識は必要であるが、仕事内容について専門性が高い公認心理師については特にその必要性が高い。 法律問題についての答えは決して一つでないことも多く、答えに悩むことも多いが、授業において法律についての基本的な知識を得た上で、実際に公認心理師として働き始めた場面を想像して、法律に関する問題を考える癖をつけてもらいたい。						
到達目標	<p>「関係行政論」について国が定めた以下の基準に従う。</p> <p>①「保健医療分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ②「福祉分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ③「教育分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ④「司法・犯罪分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ⑤「産業・労働分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】</p> <p>また以上に加え、公認心理師に関係する法律を学ぶことにより、「心の問題の解決や改善のための方策を提案し、社会に貢献しようとする」ということができる【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>1回の授業について、おおよそ教科書の1章から2章分を範囲として割り当てる。</p> <p>第1回 教科書第1章「法・制度の基本と公認心理師」 教科書第2章「公認心理師の法的立場と多職種連携」 第2回 教科書第3章「公認心理師の各分野への展開」 第3回 教科書第4章「保健医療分野に関係する法律・制度(1) 医療全般」 第4回 教科書第5章「保健医療分野に関係する法律・制度(2) 精神科医療」 第5回 教科書第6章「保健医療分野に関係する法律・制度(3) 地域保健・医療」 第6回 教科書第7章「福祉分野に関係する法律・制度(1) 児童福祉」 第7回 教科書第8章「福祉分野に関係する法律・制度(2) 障害者・障害児福祉」 第8回 教科書第9章「福祉分野に関係する法律・制度(3) 高齢者福祉」 第9回 教科書第10章「教育分野に関係する法律・制度」 第10回 教科書第11章「司法・犯罪分野に関係する法律・制度(1) 刑事」 第11回 教科書第12章「司法・犯罪分野に関係する法律・制度(2) 家事」 第12回 教科書第13章「司法・犯罪分野に関係する法律・制度(3) 少年非行」 第13回 教科書第14章「産業・労働分野に関係する法律・制度」 第14回 教科書第15章「法律が命の輝きを支えるために一心の健康・障害・多様性・危機をふまえて」 第15回 まとめとテスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には、次回扱う予定の範囲（おおよそ教科書1章分）について教科書を読み、その内容をノートに簡単にまとめてくる（学習時間1時間30分）。</p> <p>授業後には、授業で取り扱った事例に関してそれぞれの問題点、授業で取り扱った点などをノートに簡単にまとめることで、知識・考え方の定着を図る（学習時間1時間30分）。</p>						
授業方法	講義形式をとるが、毎回授業の最後に簡単な小テストを行い、理解の確認を行う予定である。小テストについては次週に解答を配り解説を加える。また理解が分かれる点については、ディスカッション形式も取り入れる。						
評価基準と評価方法	<p>平常点(毎回の小テスト)…30% 毎回の授業で扱った内容に関する基本的な理解を問う。 期末試験…70% 授業で扱った内容に関する基本的な理解を問う。</p>						
履修上の注意	教科書を使用するので、毎回下記の教科書を必ず授業に持参すること。						
教科書	『関係行政論』、元永拓郎編(法律監修 黒川達雄)、遠見書房、ISBN978-4-86616-073-3、(2600円+税)						
参考書	授業中に適宜指定する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	P42010
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解						
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ全員が顔見知りというコミュニティーでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。						
到達目標	(1) 対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの種類と特徴及び対応する心の働きを説明できる。【知識・理解】 (2) 日常の対面的コミュニケーション、特に非言語的な情報のやり取りを分析できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか 第2回 姿かたち—なぜ様々な顔があるのか 第3回 姿かたち—顔立ちから性格はわかるか 第4回 姿勢としぐさ—感情の伝達 第5回 姿勢としぐさ—様々なしぐさ 第6回 表情—表情とは何か 第7回 表情—笑いと表情の統制 第8回 情動反応 第9回 目は心の窓 第10回 視線—動物と人間の違い、視線から得る情報 第11回 対人距離、行動観察 第12回 行動観察の補足と達成度確認試験 第13回 嘘は見破れるか 第14回 印象管理—服装・髪型 第15回 社会的スキルと達成度確認試験の解説 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習： 授業内容を復習し、身近な問題に結び付けて考える(学習時間2時間)。 授業の参考書(シラバス参考書欄にあるようにWEB上で紹介)を読む(学習時間2時間)。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50%、試験 50% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)と(2)に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で回答する。 試験：到達目標(1)と(2)の到達度の確認。						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語コミュニケーション」						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	知覚・認知心理学／認知心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の知覚・認知の特徴やしぐみについて理解する						
授業の概要	知覚と認知はどちらも「知る」機能に関わっている。人は「こころ」を通して外界を知覚し、対象を、世界を、そして自分自身を認知している。この授業では、知覚や認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害について論じることができる。 ②人の認知・思考等の機序及びその障害について論じることができる。 ③人の知覚・認知について自らの考えをまとめることで、自分自身や他者に対するより深い理解と関心が得られる。						
授業計画	第1講 知覚・認知心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～色の不思議～ 第4講 知覚3 ～なぜ色が見えるのか～ 第5講 知覚4 ～三次元の世界～ 第6講 記憶1 ～自由再生の実験からわかること～ 第7講 記憶2 ～感覚記憶と注意～ 第8講 記憶3 ～短期記憶とワーキングメモリ～ 第9講 記憶4 ～長期記憶～ 第10講 問題解決 第11講 知覚・認知の障害1 ～うつ病と認知～ 第12講 知覚・認知の障害2 ～認知療法～ 第13講 まとめ 第14講 試験とふりかえり 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。適宜、実習形式による体験学習を取り入れる。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー30%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）。到達目標①②に関する到達度の確認。 期末試験70%：到達目標①②③に関する到達度の確認。試験結果の講評は15講で行う。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P23050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	SPSSを用いた、データの処理法の習得						
授業の概要	社会意識を質問紙によって調査し、分析するための知識を習得することが、本講義の目的である。まず、受講生が各自の調査目的にそって社会意識を概念化し、分析モデルを立て、質問紙を作成する。尺度構成の方法についても習得する。次に、サンプルの調査データ（JGSS）を、受講生自身の問題意識にそって分析し、結果をまとめる。また、多変量解析についても、JGSSデータをSPSSによって分析することを通して習得する。						
到達目標	人の行動や心の状態、社会意識を把握するための適切な方法について理解している。 質問紙データを妥当な方法で分析、解釈、報告できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 質問紙調査の概要 第2回 質問紙調査の手順 第3回 質問項目の作成と尺度 第4回 データの入力と加工、JGSSデータについて 第5回 単純集計 第6回 グラフ 第7回 代表値とばらつき 第8回 複数回答データ 第9回 クロス集計と関連性を表す統計量 第10回 統計的推定と検定の考え方 第11回 適合度・独立性・比率の差の検定 第12回 t検定と分散分析 第13回 重回帰分析 第14回 因子分析 第15回 筆記試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書の該当部分を予習しておく。（学習時間 2時間） 授業中の課題を各自で再度、データ分析しておく。（学習時間 2時間）						
授業方法	SPSSを用いた、実習を交えながらの講義 毎回、プリントを配布する。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的参加）30%、定期試験70%						
履修上の注意	心理学科の専門科目の「心理学調査法」を履修していることを、履修の要件とする。 遅刻は厳禁。						
教科書							
参考書	岩井紀子・保田時男 「調査データ分析の基礎」 有斐閣						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ネット社会の心理学／情報社会の心理学						
担当教員	村上 幸史					科目ナンバ-	P43030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	ネット社会の心理学／情報社会の心理学						
授業の概要	日常生活でわれわれは多くの情報に触れています。このように目や耳にする情報は、どのように伝わり、どのように受け取られるでしょうか。この講義ではその心理的特徴のうち、特に対人関係や信頼性の側面に注目して、いくつかの事例を通して解説をしていきます。						
到達目標	情報の伝達や受け取り方について、自分なりに解釈できるようになる。本科目は、ディプロマポリシーの汎用的技能に関する(1)及び(2)の能力を養成することに対応しています。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 情報の理論</p> <p>第3回 うわさ(1) うわさの理論</p> <p>第4回 うわさ(2) うわさと風評被害</p> <p>第5回 ネットワーク(1) 「ともだち」より</p> <p>第6回 ネットワーク(2) 6次のへだたり</p> <p>第7回 SNSと対人関係(1) 友人の希薄化理論と選択的關係</p> <p>第8回 SNSと対人関係(2) 返報性と社会的交換</p> <p>第9回 流行</p> <p>第10回 スケープゴートینگ(1) 攻撃行動と非難</p> <p>第11回 スケープゴートینگ(2) JR脱線事故と感染症の報道から</p> <p>第12回 スケープゴートینگ(3) 不謹慎とは</p> <p>第13回 予言とその心理(1) なぜ当たるのか、占いを例として</p> <p>第14回 予言とその心理(2) 言霊の心理</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>※進行内容により、回数等を調整することがあります。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	テーマあるいは講義の最後に、話したテーマの要点を配布または説明しますので、復習するようにしておいてください。この講義では覚えておくべき理論が大量にあるわけではないですが、その代わりに現実のニュースなどにも積極的に興味を持って触れておくこと(一日40分程度、新聞やネットニュースなどを読むようにすることが望ましい(学習時間:4時間))。						
授業方法	講義形式 内容に応じてディスカッションを導入する						
評価基準と評価方法	レポート(1回)、講義内での試験(1回)、各40%、講義中の課題20%						
履修上の注意	私語など他者に迷惑をかける行為は絶対に慎むこと。 状況により、退出してもらったり、以後の受講を認めないことがあります。						
教科書							
参考書	「スケープゴートینگ」 釘原直樹(編) 有斐閣						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1202A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人が育つということ						
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。						
到達目標	1)②誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 2)①認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 3)③自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 ①～③は公認心理師カリキュラムにおける大項目。						
授業計画	1 オリエンテーション 発達とは 2 発達の仕組みと様相 3 乳幼児発達心理学の研究法 4 遺伝と環境 5 胎児期・新生児期 6 乳幼児期の運動発達 7 乳児期～知覚 8 乳児期～素朴物理学と素朴心理学 9 乳児期～情動・愛着の発達 10 乳児期～コミュニケーションの芽生え1 前言語期 11 乳児期～コミュニケーションの芽生え2 言語期 12 幼児期～社会性の発達 13 幼児期～表象の獲得 14 まとめと試験 15 試験の復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（2時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1202B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人が育つということ						
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、児童期から高齢期の発達を中心に扱う。						
到達目標	1)②誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 2)①認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 3)③自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 4)④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方が得られる【知識・理解】 5)⑤高齢者の社会心理的課題及び必要な支援についての知識が得られる【知識・理解】 ①～⑤は公認心理師カリキュラムにおける大項目。						
授業計画	1 オリエンテーション これまでのおさらい 2 幼児期～言語の獲得 言語を獲得する準備 3 ことばと認知1 語彙獲得の制約 4 ことばと認知2 語用論 5 心の理論1 他者理解の発達 6 心の理論2 他者理解と抑制 7 児童期 認知発達 8 児童期 社会性発達 9 文化と発達1 多言語の言語発達 10 文化と発達2 外国の理解の発達 11 青年期 アイデンティティ 12 成人期 親になること 13 高齢期 14 まとめと試験 15 試験の復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（2時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 * 欠席回数には自分で把握しておきましょう。欠席数に関する問い合わせは原則受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P43080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。						
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。						
到達目標	(1) 被害者の心理と支援について学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】 (2) 被害者支援に関する具体的な事例に触れることで、実際にどのような支援が行われているのかを説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：被害者支援とは 第2回：被害者支援の歴史～被害者はどのように扱われてきたのか 第3回：被害者の抱える心理的問題～二次被害とは 第4回：被害の体験を聴く（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：トラウマとPTSD 第7回：PTSDの心理療法 第8回：質疑応答と試験① 第9回：遺族の心理的問題と対応 第10回：性暴力被害者の心理的問題と対応 第11回：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第12回：ドメスティック・バイオレンス被害者の心理的問題と対応 第13回：援助者のストレスと対応 第14回：質疑応答と試験② 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業では小グループでの発表を予定しているので、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、発表資料を用意する（学習時間：2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間：2時間）。						
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標（2）に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。中間・期末試験の講評は翌週の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	『犯罪被害者のメンタルヘルス』小西聖子（編著）誠信書房 ISBN978-4-414-40047-2						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	福祉心理学						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	P32090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	福祉ニーズのある人たちに対する福祉サービスの展開における心理学の応用について						
授業の概要	福祉心理学は「福祉に関する問題を心理学的に研究する科学、あるいは福祉を必要とする人々に対して心理学的な技法を使って介入、支援を行っていく学問」と言われる（中島ほか2018, 18）。ここでは、福祉ニーズのある人たち（要支援者）の「実情を把握し、心理的なニーズ等にも配慮しながら、社会資源の活用により適切なサービスを提供する」（中島ほか2018, 19）過程に対する心理学の知見と技術の応用について学ぶ。						
到達目標	(1) 制度としての福祉の理解を土台として、生活の場としての福祉現場の特徴、福祉現場において生ずる問題及びその背景を説明できる。【知識・理解】 (2) 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。【知識・理解】 (3) 虐待についての基本的知識を説明できる。【知識・理解】 (4) 福祉サービスの展開における多職種協働の必要性と課題を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション／導入：福祉の展開と心理支援 第2回 生活を支える心理支援 第3回 子ども家庭福祉と心理支援① 子ども家庭福祉の課題と心理支援 第4回 子ども家庭福祉と心理支援② 児童虐待に対する心理支援 第5回 高齢者福祉と心理支援① 高齢者福祉の課題と心理支援 第6回 高齢者福祉と心理支援② 認知症高齢者の心理支援 第7回 障害者福祉と心理支援① 障害者福祉の課題と心理支援 第8回 障害者福祉と心理支援② 精神障害者の心理支援 第9回 生活困窮・貧困者と心理支援 第10回 暴力被害者と加害者の心理支援 第11回 ひきこもり・自殺予防の心理支援 第12回 権利擁護、自立と意思決定の支援 第13回 福祉サービスにおける家族支援 第14回 多職種協働の必要性和環境づくり 第15回 多職種協働のコミュニケーション／期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習 ① プレパレーションペーパーの課題はマナバで提示する。 テキスト又は配付資料の指定箇所を検討し、必要に応じて文献・資料を検索、参照して完成させ、授業前の指定された時間（原則として2日前）までにマナバ上で提出する。 ② プレパレーションペーパーはすべての受講生が目を通すことができるように設定するので、自分の体験を用いる場合など、記述には注意する。 ③ 福祉制度や身近な福祉サービスとその利用方法については、各自で社会資源リストとしてまとめ、授業を通してこうしんしておくことが望ましい（これらは、将来役立つものとなる）。 （学習時間120分程度） テキストの該当箇所は下記の通りである。 第1回 テキスト「第1章 社会福祉の展開と心理支援」 第2回 テキスト「第2章 総論：生活を支える心理支援」 第3回 テキスト「第8章 子どもと親への心理支援の実際」 第4回 テキスト「第7章 児童虐待への心理支援の実際」 第5回 テキスト「第4章 高齢者への心理支援」 第6回 テキスト「第9章 認知症高齢者の心理支援の実際」 第7回 テキスト「第5章 障害・疾病のある人への心理支援」 第8回 テキスト「第11章 精神障害者への心理支援の実際」 第9回 テキスト「第6章 生活困窮・貧困者への心理支援」 第10回 テキスト「第3章 暴力被害者への心理支援」 第11回 テキスト「第10章 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際」 第12回 別途、資料配付 第13回 テキスト「第12章 家族・職員への心理支援の実際」 第14回 テキスト「第13章 福祉・介護分野での多職種協働（IPW）と心理職の位置づけ」 第15回 別途、資料配付 2. 授業後学習 ① 授業後にポイントをノートに整理する。 ② 授業の終了前に作成したリアクションペーパーは後日返却するので、教員からのコメントがある場合は目を通しておく。 ③ 授業への質問は、リアクションペーパーに記載したものにはリアクションペーパーに回答する。リアクションペーパーは他の受講生に公開することはない。 （学習時間60分程度）						
授業方法	講義に、受講生によるプレパレーションペーパーの作成と共有（スマートフォン上での閲覧、口頭発表など）、グループワークとプレゼンテーション、リアクションペーパー作成などを組み合わせる。						

評価基準と評価方法	<p>1. 点数の配分</p> <p>①プレパレーションペーパー30%</p> <p>②グループワークとプレゼンテーション5%</p> <p>③リアクションペーパー15%</p> <p>④期末テスト：50%</p> <p>2. 目標との関連</p> <p>(1) 20点 (2) 60点 (3) 10点 (4) 10点</p> <p>3. 採点基準の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本の押さえが不十分である6割前後 ・基本を押さええている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割 <p>*基準の詳細は、第1回目にルーブリックを配付して説明する。</p>
履修上の注意	<p>①プレパレーションペーパーはマナバをとおして提出する。</p> <p>②毎回の講義資料、リアクションペーパーなどは適宜、出席者に配布する。</p> <p>③福祉制度については国や自治体のホームページ、具体的な福祉サービスについては、地元自治体（例 神戸市）のホームページなどで検索し、リストをつくっておくことが望ましい。</p> <p>④授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。</p>
教科書	『福祉心理学』，中島健一（編），遠見書房，978-4-8661-6067-2
参考書	<p>『福祉臨床心理学』，園山繁樹・内田一成（編），コレール社，978-4-87637-308-6</p> <p>『福祉心理学の世界 人の成長を辿って』，中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志（編），ナカニシヤ出版，978-4-7795-1288-9</p> <p>『司法臨床の方法』，廣井亮一，金剛出版，978-4-7724-0969-8</p> <p>『児童福祉と心理臨床 児童養護施設・児童相談所などにおける心理援助の実際』，前田研史（編著），福村出版，978-4-571-42023-8</p> <p>『被虐待児の家族支援 家族再統合実践モデルと実践マニュアルの開発』，野口啓示，福村出版，978-4-571-42015-3</p> <p>『児童養護施設と被虐待児 施設内心理療法家からの提言』，森田喜治，創元社，978-4-422-11380-1</p> <p>『老年臨床心理学 老いの心に寄り添う技術』，黒川由紀子・斎藤正彦・松田修，有斐閣，978-4-641-17305-2</p> <p>『ユマニチュード入門』，本多美和子・イブ ジネスト，ロゼット マレスコッティ，医学書院，978-4-260-02028-2</p> <p>『バリデーション』，ナオミ フェイル，筒井書房，978-4-88720-339-X</p> <p>『モンテッソーリ法と間隔伸張法を用いた痴呆性老人の機能改善のための援助』，ジェニファー A ブラッシュ，キャメロン J キャンプ，三輪書房，978-4-895901659</p> <p>『障害者心理学』，柿澤敏文（編），北大路書房，978-4762829840</p>

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学概論A／臨床心理学A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P1201A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何かについて、代表的な理論を学ぶことを通して、その歴史的や特徴について考える。						
授業の概要	様々な臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、臨床心理学の成り立ちについて理解する。そして具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学という学問の成り立ちや、特徴、基本的な概念について説明できる。【知識・理解】 2. 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。【知識・理解】 3. 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。【態度・志向性】【汎用的技能】 						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション－臨床心理学とは何か 第2回：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 第3回：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 第4回：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 第5回：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 第6回：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 第7回：臨床心理学の対象②：人格障害 第8回：臨床心理学の対象③：発達障害 第9回：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 第10回：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 第11回：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 第12回：臨床心理学的アセスメント 第13回：臨床心理行為と倫理 第14回：まとめと試験 第15回：試験解題</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：第1回は「臨床心理学」、第2回は「精神分析」、など）（学習時間：2時間）。</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	<p>授業への参加・貢献度（30%）：到達目標3の達成度確認 期末試験（70%）：到達目標1, 2, 3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 期末試験に関しては第15回に解答例を配布するとともに解説を行う。</p>						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する						
参考書	下山晴彦（編）（2009）『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房。 ISBN：978-4623054350						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学概論B／臨床心理学B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	P1201B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。						
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。【知識・理解】 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：オリエンテーション —臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期・児童期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題①：虐待 第4回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題②：いじめ 第5回：思春期・青年期の心理学的特徴 第6回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題①：摂食障害 第7回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題②：対人恐怖 第8回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題③：ひきこもり 第9回：成人期・老年期の心理学的特徴 第10回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題①：自殺 第11回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題②：認知症 第12回：授業のまとめと試験 第13回：グループ発表とディスカッション① 第14回：グループ発表とディスカッション② 第15回：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマについて事前に調べる。また、授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心を持つ心理学的問題について調べ、発表資料を作成する（学習時間：2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間：2時間）。						
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、小グループによる発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						